【テキスト】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習のテキスト ・慢性期看護(病気とともに生活する人を支える)／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学 2～15／医学書院 ・NANDA-I 看護診断(定義と分類)／上鶴重美監訳／医学書院				
【参考図書】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習の資料や紹介した書籍 実習時に適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他(　　) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が指導する				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	急性期看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Acute Care Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊林みよ子				
【担当教員】	＊林みよ子、＊山田紋子、＊中岡正昭、＊長谷部美紀、＊中村卓樹				
【授業の概要】	急性期看護学とは、手術という身体侵襲を受ける人々や救命救急処置を要する人々とその家族を対象とし、身体侵襲を受けた時期から回復に至るまでの看護に関する学問である。本授業は、成人期を中心に、急性期にある人々とその家族を、身体的・心理的・社会的に統合された存在として、身体侵襲や心理的危機からの早期回復を促進するための看護実践に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。				
【キーワード】	手術、救命救急、身体侵襲、回復過程、				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1.　急性期にある人々とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2.　周手術期にある患者の健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。 3.　代表的な手術を受ける患者の特徴・健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。 4.　緊急度・重症度の高い患者の特徴・健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。				
【授業方法】	講義				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	ガイダンス／急性期・周術期にある人々の特徴（林みよ子） 手術を受ける患者の看護①手術前の看護（林みよ子）			事前：テキスト①P.2～5、44～72、テキスト②P.194～203 を読んでおく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 2 回	手術を受ける患者の看護②手術中の看護（中岡正昭）			事前：テキスト①P.74～98、テキスト②P.250～256 を読んでおく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 3 回	手術を受ける患者の看護③手術後の看護（中岡正昭） （小テスト）			事前：テキスト①P.41～43、102～106、テキスト②P.294～304 を読んでおく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 4 回	開腹術を受ける患者（胃・大腸の疾患）の看護①（長谷部美紀）			事前：テキスト①P.260～278、378～398 を読んでおくを読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 5 回	開腹術を受ける患者（肝臓・胆道・膵臓の疾患）の看護②（中村卓樹）			事前：テキスト①279～315 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 6 回	開胸術を受ける患者の看護（中岡正昭） （小テスト）			事前：テキスト①P.202～220、P.240～259 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 7 回	心臓手術・血管手術を受ける患者の看護（中岡正昭）			事前：テキスト①P.221～239 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 8 回	開頭術を受ける患者の看護（林みよ子） （小テスト）			事前：テキスト①P.177～200、テキスト③P.393～407 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 9 回	整形外科手術を受ける患者の看護（中村卓樹）			事前：テキスト①P.316～335 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 10 回	泌尿器・婦人科手術を受ける患者の看護（長谷部美紀）			事前：テキスト①P.355～377、399～418 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第 11 回	乳がん手術を受ける患者の看護（山田紋子）			事前：テキスト①P.336～354、テキスト③P.59～72 を読んでおく。第 2～3 回の授業の復習	

		事後:授業で学んだ内容をまとめる
第 12 回	クリティカルな状態にある患者の看護(中岡正昭)	事前:テキスト①P.6～7、14～17、テキスト②P.188～191、334～357 を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる
第 13 回	クリティカルな状態にある患者の家族の看護／急性期にある患者の在宅移行支援(林みよ子)	事前:テキスト①P.29～31、P.154～161 を読んでおく。第 12 回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる
第 14 回	急性期における倫理的課題(山田紋子)	事前:4つの倫理原則を復習しておく 事後:授業で学んだ内容をまとめる
第 15 回	まとめ	事前:これまでの授業内容を復習する 事後:各自で期末試験準備をする

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、病態学の単位を取得していること。				
【関連科目】	慢性看護学概論、慢性看護学援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 期末試験 80%(DP1-2:到達目標 1～4 に対応)、小テスト 20%(DP1-2:到達目標 2～4 に対応)として総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	小テスト:実施後に正解を提示する。				
【テキスト】	① 成人看護学・急性期看護Ⅰ-概論・周手術期看護／林直子・佐藤まゆみ編／南江堂 ② 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護総論／池上徹他／医学書院 【病態学のテキスト】 ③ 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護各論／北川雄光他／医学書院 【病態学のテキスト】				
【参考図書】	・その他、講義の進行度に添って紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*急性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可 (日本語による授業)

【科目名】	急性期看護援助論演習		【科目英語名】	Seminar in Acute Care Nursing	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊林みよ子				
【担当教員】	＊林みよ子、＊山田紋子、＊前野真由美、＊鈴木郁美、＊中岡正昭、＊長谷部美紀、＊植田春美、＊中村卓樹				
【授業の概要】	急性期看護学概論で学習した知識を基に、緊急度・重症度の高い健康問題によって短時間に健康レベルが低下した人々とその家族に対して、必要な看護援助の実際を学ぶ。特に、健康問題別の看護過程の展開方法、手術前後に必要な看護援助、バイタルサインズの異常に対する臨床判断について学習する。				
【キーワード】	急性期看護、周術期看護、救急救命、バイタルサインズの異常				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　■DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1.　事例患者の手術前・手術後のアセスメントを記述できる。 2.　モデル人形で設定された患者のバイタルサインズの異常を判断した結果を説明できる。 3.　事例患者の術後1日目の看護援助をデモンストレーションできる。				
【授業方法】	講義、小グループディスカッション、デモンストレーション				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス（林みよ子）／ 大腸がんを受ける患者の事例展開（長谷部美紀）			事前：急性期看護学概論の「開腹術を受ける患者の看護①」を復習しておく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第2回	乳がん手術を受ける患者の事例展開①（山田紋子）			事前：急性期看護学概論の「乳がん手術を受ける患者の看護」を復習しておく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第3回	乳がん手術をける患者の事例展開②（山田紋子）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第4回	事例患者の術前アセスメント（林みよ子、担当教員全員）			事前：急性期看護学概論・第1回・第2回の授業を復習しておく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第5回	事例患者の術前看護援助①（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第6回	事例患者の術前看護援助②（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時の提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第7回	事例患者の術後アセスメント（林みよ子、担当教員全員）			事前：急性期看護学概論・第2回・第3回の授業を復習しておく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第8回	事例患者の術後看護援助①（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第9回	事例患者の術後看護援助②（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第10回	臨床判断シミュレーション演習①（林みよ子、担当教員全員）			事前：急性期看護学概論・第3回・第12回の授業を復習しておく 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第11回	臨床判断シミュレーション演習②（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第12回	臨床判断シミュレーション演習③（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第13回	技術習得確認統合演習①（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第14回	技術習得確認統合演習②（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	
第15回	技術習得確認統合演習③（林みよ子、担当教員全員）			事前：授業時に提示する課題に取り組む 事後：授業で学んだ内容をまとめる	

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、病態学の単位を取得していること。				
【関連科目】	急性期看護学概論、慢性看護学概論、慢性看護学援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 紙上事例の看護展開記録 20%(DP2、DP3:到達目標1に対応)、技術習得確認統合演習 80%(DP2、DP3:到達目標 2～3 に対応)を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	・各グループの演習実施状況に応じて適時、担当教員がフィードバックを行う。 ・技術習得確認統合演習の評価は 8 月上旬に返却する。				
【テキスト】	① 成人看護学・急性期看護Ⅰ-概論・周手術期看護／林直子・佐藤まゆみ編／南江堂 ② 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護総論／池上徹他／医学書院 【病態学のテキスト】				
【参考図書】	・その他、演習の進行度に添って紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク ■E その他(デモンストレーション) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊急性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	急性期看護学実習		【科目英語名】	Practice in Acute Care Nursing	
【開講時期】	3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊林みよ子				
【担当教員】	＊林みよ子、＊山田紋子、＊前野真由美、＊鈴木郁美、＊中岡正昭、＊長谷部美紀＊植田春美、＊中村卓樹				
【授業の概要】	本科目は、急性期看護学概論・急性看護援助論演習で学習した知識・技術を医療現場で活用しながら対象との直接的なかかわりを通して、実践的に学び、これらの学びを通して看護職の役割および機能、多職種との連携の実際を学ぶ。本授業では、成人期あるいは老年期にある周手術期・急性期の患者とその家族を理解し、科学的根拠に基づく看護実践を展開するための知識・技術・態度を修得することを目的とする。				
【キーワード】	急性期看護、援助的人間関係、対象の総合的理解、科学的根拠に基づく看護実践				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　■DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解して看護問題を抽出できる。 2. 抽出した看護問題に対する看護計画を立案・実施し、評価することができる。 3. 受け持ち患者とその家族を尊重した関わりができ、援助的人間関係を発展させることができる。 4. 実習での体験を通して看護職の役割・機能および多職種との連携・協働の必要性を説明できる。 5. 医療の現場で出会う矛盾や葛藤に対して建設的な意見を述べることができる。				
【授業方法】	原則として、1名の周術期患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、全体像の統合、看護計画立案を行い、立案した看護計画に基づいてケアを実践し、看護過程を評価・修正する。また、手術室や集中治療室における見学実習を行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
1 日目 2 日目 3 日目 4 日目 5 日目 6日目 7 日目 8 日目 9 日目 10 日目	実習内容と実習病棟のオリエンテーションを受ける。 受け持ち患者を決定し、情報収集を行う。 手術室と集中治療室の見学をする。 受け持ち患者に病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集し、アセスメントを開始する。カンファレンスを行う。 (学内日)収集した情報の整理、アセスメント、全体像の統合、看護問題の明確化を行う。 受け持ち患者に対して、術後経過に応じた病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、明確化した看護問題に対する看護計画を立案する。カンファレンスを行う。 立案した看護計画に沿ってケアを実践する。実践を評価し、アセスメント・全体像・看護計画の妥当性を検討し、必要に応じて修正する。カンファレンスを行う。 立案した看護計画のケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。 立案した看護計画のケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。 (学内日)看護過程を整理する 立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。看護過程のまとめとして看護要約を作成する。カンファレンスを行う。 立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護過程の最終的な評価をする。最終カンファレンスと、評価面接を行う。			【事前課題】 1 日目：急性期看護学概論・急性期看看護援助論演習で学習した看護過程展開方法や周手術期看護の復習 2 日目以降：学内日を除き、行動計画を立案する。受け持ち患者の手術を見学する日は手術室行動計画も立案する。 5日目：実習評価表に基づいて、中間評価を行い、以降の課題を明確にする。 10 日目：評価表の最終的な自己評価をする。 【事後課題】 その日の実習内容を振り返り、行動計画の評価と実習進度に応じた看護過程の展開を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	急性期看護学概論、急性期看護援助論演習の単位を取得していること。				
【関連科目】	急性期看護学概論、急性期看護援助論演習、慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学				
【評価方法】	全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 「慢性看護学・急性期看護学評価表」100%(DP3、DP4：到達目標 1～4 に対応)に基づいて評価する				

【フィードバックの方法】	・実践のフィードバック：実施後に担当教員あるいは実習指導者から口頭でコメントする。 ・実習記録のフィードバック：担当教員による記録へのコメント記載あるいは口頭でコメントする。 ・実習全体のフィードバック：実習終了後の評価面接で担当教員から口頭でコメントする。				
【テキスト】	急性期看護学概論・急性看護援助論演習のテキスト ・成人看護学・急性期看護Ⅰ－概論・周手術期看護／林直子・佐藤まゆみ編／南江堂 ・系統看護学講座－別巻・臨床外科看護総論／池上徹他／医学書院【病態学のテキスト】 ・系統看護学講座－別巻・臨床外科看護各論／北川雄光他／医学書院【病態学のテキスト】				
【参考図書】	急性期看護学概論・急性看護援助論演習の資料や紹介した書籍 その他、実習時に適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他（ ）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊急性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が実習指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Gerontological Nursing	
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】		【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義必修			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	鈴木みずえ				
【担当教員】	＊鈴木みずえ、＊小池潤、＊枝晃司、＊非常勤講師				
【授業の概要】	高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すことは、これからの高齢化社会で我々が生活をしていく上で不可欠なものである。それと同時に、看護や医療に従事する人材には、それらに関する知識や理解は欠かせないものである。本授業は、これらに関する基礎的知識を修得すること目的としている。				
【キーワード】	加齢変化、高齢者の健康、高齢者の生活				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 加齢による影響や老年期の特徴から高齢者を理解し説明できる。 2. 高齢者をとりまく社会、保健・医療・福祉制度、様々な生活の場を説明できる。 3. 高齢者看護の特性、諸理論、倫理について説明できる。 4. 高齢者看護の基本を理解し、多職種連携における看護職の役割を説明できる。 5. 高齢者の健康と疾患について理解し、老年看護学の視点を説明できる。				
【授業方法】	講義・課題学習を併用して授業をすすめる。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授業ガイダンス 高齢者の理解①　高齢者とは、高齢者と QOL			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 2 回	高齢者の理解②加齢に伴う変化			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 3 回	高齢者をとりまく社会			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 4 回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 枝　晃司			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 5 回	高齢者看護の基本① 高齢者看護の特性、諸理論、倫理			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 6 回	高齢者看護の基本② 高齢者保健・医療・福祉におけるチームアプローチ、リスクマネジメント			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 7 回	高齢者のヘルスプロモーション			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 8 回	生活を支える看護			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 9 回	認知症・うつ病・せん妄の看護① 認知症、うつ病、せん妄			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 10	認知症・うつ病・せん妄の看護② 中核症状、BPSD、家族の支援			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 11 回	治療を受ける高齢者の看護			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 12 回	終末期の看護 終末期看護の実践、看取りを終えた家族への支援			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 13 回	エンドオブライフケア 高齢者の死と医療・ケア、看取りを終えたスタッフへのケア アドバンスケアプランイングを考えるモシバナゲーム			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 14 回	高齢者の理解③　災害看護			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第 15 回	まとめ			第 1～14 回までの講義内容を復習する	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				

【関連科目】	老年看護援助論、老年看護学演習、老年看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 提示される課題の提出を必須とする。試験 60%、課題レポート 20%、出席状況 10%、授業時間内の質疑応答 10%とし、合計点で評価する。				
【フィードバックの方法】	課題レポートの質問には、講義中に説明、コメントする。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4840484695 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4840484701				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊高齢者看護の経験のある教員が実務経験を生かして講義を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護援助論		【科目英語名】	Gerontological Nursing	
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊小池潤				
【担当教員】	＊小池潤、＊鈴木みずえ、＊枝晃司、＊佐藤理乃				
【授業の概要】	高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すことは、これからの高齢化社会で我々が生活をしていく上で不可欠なものである。それと同時に、看護や医療に従事する人材には、それらに関する知識や理解は欠かせないものである。本授業は、健康問題や日常生活活動に何らかの援助が必要な高齢者および家族に対して望む生活を安全に送るための看護援助を修得すること目的とする。				
【キーワード】	健康障害、加齢変化、高齢者ケア				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 加齢や疾患により健康障害が生じた高齢者の生活機能を整える看護が説明できる。 2. 健康障害をふまえ、高齢者およびその家族への看護援助並びに援助技術について説明できる。 3. 高齢者のもてる力（強み）に着目し、その人らしさを追求した効果的な看護を展開するための知識を修得する。				
【授業方法】	教科書、配布資料を用いて授業をすすめる。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授業ガイダンス 活動と休息を支える看護			事前：教科書の該当部分の確認 事後：講義内容の復習	
第 2 回	清潔・衣生活を支える看護			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 3 回	食生活を支える看護			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 4 回	排泄を支える看護			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 5 回	高齢者のフレイルと看護			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 6 回	高齢者の日常生活を支える基本的動作 認知症高齢者の意欲を引き出す看護			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 7 回	高齢者特有の疾患と看護 脳血管障害、パーキンソン病			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 8 回	まとめ			第 1～7 回までの講義内容を復習する	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	老年看護学概論の履修				
【関連科目】	老年看護学概論、老年看護学演習、老年看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 提示される課題の提出を必須とする。 筆記試験 70%、課題 30%（DP1-2：到達目標 1～3 に対応）にて評価する。				
【フィードバックの方法】	授業中の質問については、その都度対応する。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-8469-5 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-8470-1				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート　□B グループワーク　□C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊高齢者看護の経験のある教員が実務経験を生かして講義を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Gerontological Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊小池潤				
【担当教員】	＊小池潤、＊鈴木みずえ、＊枝晃司、＊非常勤講師				
【授業の概要】	高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すことは、これからの高齢化社会で我々が生活をしていく上で不可欠なものである。それと同時に、看護や医療に従事する人材には、それらに関する知識や理解は欠かせないものである。本授業は、 高齢者及びその家族を対象とした事例展開を通じて、老年看護特有の看護援助方法並びに援助技術を学ぶ。また、様々な健康レベルにある高齢者について理解を深め、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得すること目的としている。				
【キーワード】	老年看護、加齢変化、高齢者を支える技術				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　■DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 加齢に伴う心身機能の変化に加え、特徴的な疾病を持つ高齢者の看護を実践するために、根拠に基づいたケア・評価方法を修得する。 2. 健康障害の状態にある高齢者の潜在能力に着目し、生活を支える看護実践力を修得する。 3. 高齢者を取り巻く倫理的課題について考え、看護師としての倫理観を養う。				
【授業方法】	講義、グループディスカッション、演習、課題学習を併用して授業をすすめる。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授業ガイダンス 高齢者疑似体験の準備			事前:老年看護学の既習内容を復習 事後:自己学習計画の立案	
第 2 回	高齢者の症状とアセスメント			事前:教科書該当内容の確認 事後:講義内容の復習	
第 3 回	高齢者の認知機能評 高齢者の意思を引き出すアセスメント(CGA　QOL　意欲)			事前:教科書該当内容の確認 事後:講義内容の復習	
第 4 回	高齢者の身体機能評価 転倒転落アセスメント、動作のアセスメント			事前:教科書該当内容の確認 事後:講義内容の復習	
第 5 回	摂食嚥下障害のある患者の看護 高齢者の排泄ケア			事前:教科書該当内容の確認 事後:講義・演習内容の復習	
第 6 回	摂食嚥下障害のある患者の看護 高齢者の排泄ケア			事前:事前課題の実施 事後:演習内容の復習	
第 7 回	高齢者とのコミュニケーション			事前:教科書該当内容の確認 事後:講義内容の復習	
第 8 回	老年看護における看護過程			事前:教科書該当内容の確認 事後:講義内容の復習	
第 9 回	高齢者疑似体験①			事前:授業時に提示する準備 事後:演習内容の復習	
第 10 回	高齢者疑似体験②			事前:授業時に提示する準備 事後:演習内容の復習	
第 11 回	看護過程の展開①			事前:事例の個人ワーク 事後:演習内容の復習	
第 12 回	看護過程の展開②			事前:事例の個人ワーク 事後:演習内容の復習	
第 13 回	看護過程の展開③			事前:事例の個人ワーク 事後:演習内容の復習	
第 14 回	看護過程の展開④			事前:事例の個人ワーク 事後:演習内容の復習	
第 15 回	まとめ			事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:全ての授業内容の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	老年看護学概論、老年看護援助論の単位を修得していること				

【関連科目】	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題学習 80%(DP2:到達目標 1、3 に対応)、演習実践 20%(DP3:到達目標 2 に対応)を総合して評価する。 評価基準はルーブリックを用いる。				
【フィードバックの方法】	演習において、教員はグループの取り組み内容や相互学習状況を確認し、必要時助言を行う。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-8469-5 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-8470-1				
【参考図書】	生活機能から見た老年看護過程　病態・生活機能関連図／医学書院／978-4260042741 看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術／メヂカルフレンド社／978-4839216924 根拠と事故防止からみた老年看護技術／医学書院／978-4260043267				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊高齢者看護の経験のある教員が実務経験を生かして演習を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護学実習		【科目英語名】	Practice in Gerontological Nursing	
【開講時期】	3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊小池潤				
【担当教員】	＊小池潤、＊鈴木みずえ、＊枝晃司				
【授業の概要】	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学演習での学びを基盤として、高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化や老年期に生じやすい健康問題を持ちながら生活する高齢者を理解し、対象に応じた看護実践能力を養う。医療・福祉における高齢者の課題を捉え、高齢者が望む生活を継続するための看護のあり方、高齢者を中心とした多職種連携について学び、看護の役割について考える。				
【キーワード】	看護過程、療養生活支援、多職種連携				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 加齢に伴う変化及び健康障害を持つ高齢者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に説明できる。 2. 対象者に合わせたコミュニケーションや生活援助を通して、高齢者と円滑な関係を築くことができる。 3. 加齢や健康障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解でき、高齢者のもてる力をふまえた上で、生活機能の維持・回復・再構築を目標にした看護援助を計画・実践し、評価できる。 4. 多職種との連携・社会資源活用の必要性を理解し、看護師の役割について考察できる。 5. 看護学生としての自覚と責任のある態度をとり、主体的に実習に臨むことができる。				
【授業方法】	1. 回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、介護老人保健施設のいずれかにおいて、高齢者を受け持ち、看護を実践する。対象者の生活史・望む生活を把握し、「できること・していること」に着目し、個別性を理解する。対象者の健康上の課題を捉え、看護計画を立案する。生活機能を維持しながら自立性や症状緩和を考慮して看護を実践する。 2. 医療機関では、高齢者の機能維持・回復に向けた看護と多職種連携の実際を学ぶ。 3. 介護老人保健施設では、高齢者の望む生活の継続に向けた社会資源と看護の実際について学ぶ。 4. カンファレンスを行い、相互学習を通して学びを深める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. オリエンテーション 実習内容のオリエンテーションと実習準備 2. 病院または介護老人保健施設における実習 1） オリエンテーション、受け持ち利用者の情報収集 2） 看護計画の立案・実施・評価・修正 3） 高齢者ケアの見学・実施 3. カンファレンス ： 学生主体にテーマを設定して討議する 4. 学内実習 ： 計画立案、ケアの準備、実習の学びを発表 5. 実習のまとめ、レポート作成			【事前】 ・老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学演習の復習をする。 ・主体的に実習計画を立案する。 【事後】 ・その日の実習内容を振り返り、行動計画の評価を行う。看護過程を展開し、実習記録用紙に記載する。 ・実習要領を参照し、実習記録を提出する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	老年看護学演習の単位を取得していること				
【関連科目】	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学演習				
【評価方法】	原則として、全実習日数（学内日含む）の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 実習評価表 100%（DP3、DP5：到達目標 1～5 に対応）に基づき、総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	計画・実践：担当教員あるいは実習指導者から口頭で助言する。 実習記録：担当教員による口頭での助言、あるいは記録へコメントを記載する。 実習全体：実習最終日の発表会、実習終了後の評価面接で教員から口頭で助言する。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-8469-5 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-8470-1				
【参考図書】	既学習で用いたテキストおよび資料				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊高齢者看護の経験を有する教員が実務経験を生かして実習全般を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Women's Health and Maternal Nursing	
【開講時期】	2年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	＊福島恭子				
【担当教員】	＊藤田景子、＊永谷実穂、＊福島恭子、＊高橋明味、＊予定教員（非常勤）				
【授業の概要】	ヒューマン・セクシュアリティ、セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ ライツなどの母性看護学に関連する理論や概念を学び、女性を尊重したケアについての理解を深める。その上で、ライフステージ各期(思春期・成熟期・更年期)における健康課題と看護や女性とその家族を取りまく社会問題について、セルフケアやメディアリテラシーを踏まえて学び自己の考えを述べられるようにする。				
【キーワード】	ヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、女性のライフサイクル				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 母性看護学の対象とケアの場について説明できる。 2. 女性生殖器の解剖学的構造や女性の性周期（基礎体温の変化、ホルモン周期、排卵周期）について説明できる。 3. セクシュアリティ、セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツについて説明できる。 4. 女性のライフステージ各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康課題と看護について説明できる。 5. 女性とその家族を取りまく社会問題に着目し、意見を述べることができる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	ヒューマン・セクシュアリティ、セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ ライツ(藤田景子)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第2回	女性生殖器の解剖学的構造、女性の性周期、月経機序、月経困難症、月経前症候群、性感染症（予定教員）			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第3回	女性を支援する際に必要なジェンダーの視点(ゲストスピーカー)			事前:提示した課題に関する文献、新聞記事、図書等を検索し準備する。 事後:提示した課題に関するレポートを作成する。	
第4回	ライフステージ各期における健康とケア:思春期(髙橋明味)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第5回	ライフステージ各期における健康とケア:成熟期(福島恭子)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第6回	ライフステージ各期における健康とケア:更年期と老年期(永谷実穂)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第7回	地域の助産師活動の実際(ゲストスピーカー)			事前:地域の母子の生活について予習する。 事後:講義内容をふまえて自己の考えをリアクションペーパーにまとめる	
第8回	まとめ(藤田景子、永谷実穂、福島恭子、髙橋明味)			事前:全ての講義の復習を行う。 事後:自己課題に対する復習を行い母性看護援助論Ⅰの準備をする	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 各講義担当の教員別の筆記試験 80%(DP1-2:到達目標 1～4 に対応)、女性を支援する際のジェンダーの視点レポート20%(DP5:到達目標5に対応)から評価する。レポートについては、ルーブリック評価表を配布する。				
【フィードバックの方法】	講義内容に関する質問については、講義またはユニパを用いて回答する。				
【テキスト】	NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学Ⅰ概論 第3版女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求/有森直子/医歯薬出版/ISBN978-4-263-23117-3 看護学テキスト NiCE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患/百枝幹雄・山中美智子・森明子／南江堂／ISBN978-				

	4-524-23754-8				
【参考図書】	講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊医師、助産師として実務経験のある教員が周産期における基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護援助論Ⅰ		【科目英語名】	Maternal and Newborn Nursing Ⅰ	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	＊永谷実穂				
【担当教員】	＊永谷実穂、＊福島恭子、＊髙橋明味、＊予定教員、＊新谷光央(非常勤)				
【授業の概要】	周産期にある対象への看護実践の根拠となる基本的知識を習得する。周産期にある女性やこども(胎児・新生児)の理解として、身体的変化や異常について学ぶ。また、母乳育児の意義や世界的な指針、母子相互作用の概念を学ぶことを通して、母子を一組でみることの大切さや家族中心のケア(Family-centered Care)、周産期における倫理的課題と配慮についての理解を深める。				
【キーワード】	周産期、母乳、母子相互作用、グリーフケア				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 妊娠・分娩・産褥期の女性の身体的変化および胎児の成長発達、新生児の生理的変化・成長発達について理解することができる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常、異常について理解することができる。 3. 母乳育児に関する歴史・世界的な指針・意義、母子相互作用の概念について理解することができる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	周産期に関わる倫理(永谷実穂)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第2回	妊娠の女性の身体的変化(妊娠の成立、妊娠経過)、胎児の成長発達(新谷光央)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第3回	分娩期の女性の身体的変化(正常分娩機転、分娩の3要素、陣痛発来機序)(新谷光央)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第4回	妊娠・分娩の異常:妊娠期の異常、胎児異常、分娩期の異常、帝王切開術(新谷光央)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第5回	母子相互作用と母乳育児(髙橋明味)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第6回	新生児の胎外生活適応過程、生理的変化、成長発達、新生児の異常(福島恭子・予定教員)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第7回	産褥期の女性の身体的変化(進行性変化、退行性変化)、身体的異常(福島恭子)			事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。	
第8回	まとめ(永谷実穂、福島恭子、髙橋明味、予定教員)			事後:自己課題に対する復習を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	母性看護概論、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 筆記試験100%(DP1-2:到達目標1～3に対応)を実施し評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容に関する質問については、講義またはユニパ機能を用いて回答する。				
【テキスト】	NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学Ⅰ概論 第3版女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求/有森直子/医歯薬出版/ISBN978-4-263-23117-3 NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学Ⅱ周産期各論 第3版質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得/有森直子/医歯薬出版/ISBN978-4-263-23118-0 看護学テキスト NiCE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患/百枝幹雄・山中美智子・森明子／南江堂／ISBN978-4-524-23754-8				
【参考図書】	講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊医師、助産師として実務経験のある教員が周産期における基本的知識を講義する。				
【その他】	なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護援助論Ⅱ		【科目英語名】	Maternal and Newborn Nursing Ⅱ	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊福島恭子				
【担当教員】	＊福島恭子、＊永谷実穂、＊髙橋明味、＊予定教員				
【授業の概要】	妊娠・分娩・産褥・新生児各期にある女性と胎児・新生児の身体的・心理的・社会的変化を理解し、正常に経過するための援助方法を学ぶ。また、女性のセルフケア能力と新生児の適応能力を引き出すことにより健康の維持・増進をはかる支援方法について学ぶ。事例を用いた看護過程展開では、看護診断およびその根拠となるアセスメントに関するグループワークを経て、各々での看護計画立案を行う。				
【キーワード】	周産期、ウェルネス、看護過程				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期各期にある対象の身体的・心理的・社会的変化を理解し、健康状態の診査、維持・増進の方法が説明できる。 2. 新生児の生理学的特徴を踏まえ、子宮外生活への適応過程について説明できる。 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期に出現頻度の高い合併症および正常からの逸脱を示す症状を述べられる。 4. 産褥期の事例を用いて、ウェルネスの視点で 1 組の母子の看護過程を展開できる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	事例紹介とグループワーク導入（福島恭子）			事前：教科書 P287-288、P411-412 の練習問題に解答し、解説該当部分を読んでおく。 事後：事例対象理解のための復習をする。	
第 2 回	妊娠期の看護（髙橋明味）			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 3 回	分娩期の看護（福島恭子）			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 4 回	新生児の看護(永谷実穂)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 5 回	産褥期の看護①母乳育児(髙橋明味)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 6 回	産褥期の看護②帝王切開後の褥婦のケア（永谷実穂）			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 7 回	ウェルネスの看護過程展開（福島恭子）			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容の復習をする。	
第 8 回	看護過程の展開①(福島恭子、永谷実穂、髙橋明味、予定教員)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。	
第 9 回	看護過程の展開②(福島恭子、永谷実穂、髙橋明味、予定教員)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。	
第 10 回	看護過程の展開③(福島恭子、永谷実穂、髙橋明味、予定教員)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。	
第 11 回	看護過程の展開④(福島恭子、永谷実穂、髙橋明味、予定教員)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。	
第 12 回	看護過程の展開⑤(福島恭子、永谷実穂、髙橋明味、予定教員)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。	
第 13 回	看護過程の展開⑥(福島恭子、永谷実穂、髙橋明味、予定教員)			事前：教科書の該当部分を確認する。 事後：講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。	
第 14 回	地域における母子支援活動(ゲストスピーカー)			事前：地域母子支援活動について予習をす	

		る。 事後：講義内容をふまえて自己の考えをレポートにまとめる。
第 15 回	まとめ（中川有加、永谷実穂、福島恭子、池田美音、髙橋明味）	事前：全ての講義の復習を行う。 事後：看護過程の展開をまとめて、母性看護学臨地実習の準備をする

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰの単位を取得していることを履修条件とする。				
【関連科目】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護学演習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 各講義担当の教員別の筆記試験 50%(DP1-2：到達目標 1～3 に対応)、看護過程の展開 50%(DP2：到達目標 4 に対応)から評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容に関する質問については、講義またはユニパを用いて回答する。看護過程の展開は、教員が添削し、臨地実習前に個別にフィードバックを行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱマタニティサイクル改訂第 3 版／大平光子・井上尚美・大月恵理子・佐々木くみ子・林ひろみ／南江堂／ISBN978-4-524-22888-1 看護学テキスト NiCE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患／百枝幹雄・山中美智子・森明子／南江堂／ISBN978-4-524-23754-8				
【参考図書】	講義の中で適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　□C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊助産師として実務経験のある教員が周産期における基本的知識と看護を講義する。				
【その他】	なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Maternal Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊高橋明味				
【担当教員】	＊永谷実穂、＊福島恭子、＊高橋明味、＊予定教員				
【授業の概要】	周産期看護を実践するために必要なフィジカルアセスメント、およびケア技術の演習を行い、看護の実践能力を身につける。そのために、母子の健康診査、新生児の沐浴、授乳時におけるポジショニングとラッチオンの援助方法について演習する。また、健康教育の意義を学習し、対象に必要な健康教育に関してロールプレイを行うことを通して、産褥期の看護援助の目的・方法、さらに女性や家族に対する健康教育の計画立案から実施・評価の方法を学習する。				
【キーワード】	周産期看護、新生児・褥婦のフィジカルアセスメント、健康教育				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　■DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 妊婦の身体的変化を理解し健康診査の方法と援助について説明できる 2. 褥婦および新生児の健康診査に必要な技術を習得できる。 3. 新生児の沐浴をデモンストレーションできる。 4. 授乳の援助をロールプレイで実施できる。 5. 事例母子に対する健康教育計画の立案、ロールプレイによる実施・評価できる。				
【授業方法】	演習資料に基づいて、各技術を演習する。グループワークにより立案した健康教育について発表し、互いに学習内容を共有する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授乳時のポジションとラッチオン/妊婦健康診査 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 2 回	授乳時のポジションとラッチオン/妊婦健康診査 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 3 回	授乳時のポジションとラッチオン/褥婦健康診査 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 4 回	授乳時のポジションとラッチオン/褥婦健康診査 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 5 回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 6 回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 7 回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 8 回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 9 回	産褥期の看護/妊婦健康診査（永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：教科書・演習資料の該当内容の確認、技術動画視聴。 事後：演習内容の復習	
第 10 回	健康教育イントロダクション、健康教育計画立案および媒体作成（永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：事例母子の看護過程の見直し。 事後：健康教育計画立案方法の復習	
第 11 回	健康教育媒体作成、発表準備 （永谷実穂、福島恭子、高橋明味、予定教員）			事前：健康教育の実施方法の工夫について考える。 事後：課題内容の作成	

第 12 回	健康教育媒体作成、発表準備(永谷実穂、福島恭子、髙橋明味、予定教員)	事前:健康教育の実施方法の工夫について考える。 事後:課題内容の作成
第 13 回	健康教育発表(永谷実穂、福島恭子、髙橋明味、予定教員)	事前:健康教育ロールプレイ準備。 事後:健康教育についての自己課題をみつけ臨地実習に備える。
第 14 回	健康教育発表(永谷実穂、福島恭子、髙橋明味、予定教員)	事前:健康教育ロールプレイ準備。 事後:健康教育についての自己課題をみつけ臨地実習に備える。
第 15 回	まとめ(永谷実穂、福島恭子、髙橋明味、予定教員)	事前:学修した技術の復習を行う。 事後:技術の習得についての自己課題を見つけ臨地実習に備える。

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 評価は、チェックリストによる技術到達度評価 60%(DP3:到達目標 1～3 に対応)、グループワークでの健康教育成果物およびロールプレイ 40%(DP2:到達目標 1～5 に対応)により総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	演習内容については授業時間内でフィードバックを行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクル改訂第 3 版／斎藤いずみ・長谷川ともみ・三隅順子／南江堂／ISBN978-4-524-22979-6 看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱマタニティサイクル改訂第 3 版／大平光子・井上尚美・大月恵理子・佐々木くみ子・林ひろみ／南江堂／ISBN978-4-524-22888-1				
【参考図書】	パーフェクト臨床実習ガイド　母性看護(第 2 版)／　堀内成子編／照林社／ISBN 978-4-7965-2411-7 母乳育児スタンダード第 2 版／NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編／医学書院／ISBN978-4-260-02070-1 新訂版　写真でわかる母性看護技術アドバンス／平澤美恵子，村上睦子監修／インターメディカ／ISBN978-4899964100				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　□C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　■E　その他(デモンストレーション、ロールプレイ　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊助産師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。				
【その他】	なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護学実習		【科目英語名】	Practice in Maternal and Newborn Nursing	
【開講時期】	3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊永谷実穂				
【担当教員】	＊永谷実穂、＊福島恭子、＊髙橋明味、＊予定教員				
【授業の概要】	母性看護領域における看護の対象者は、主として健康な妊産褥婦とその胎児・新生児である。妊娠・分娩・産褥・新生児各期に生ずる変化は生理的なものであり、対象者自らの回復・適応力を引き出し、より良い健康状態となることを支援することが求められる。本実習では、受持ち母子の看護過程展開を通して、ウェルネスの概念に基づく看護を実践すると共に、退院後の生活を踏まえた支援に必要な知識・技術を提供できる。				
【キーワード】	女性を中心としたケア、家族を中心としたケア、地域との連携				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 妊娠・分娩・産褥期の女性の身体的・心理的・社会的変化の理解および胎児・新生児の成長発達を診査しそれぞれの対象の健康の保持増進に向けた援助ができる。 2. 妊産褥婦と胎児・新生児、パートナー、家族の新しい役割への適応状態を診査し、適応を促すための援助ができる。 3. 倫理的配慮のもと実習し、保健医療福祉チームの一員として行動することの重要性を説明できる。 4. 実習を通して、母子保健に関する社会の動向や保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。				
【授業方法】					

【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】
1 日目	実習病棟のオリエンテーションを受け、受け持ち母子を決定し、情報収集を行う。	【事前課題】 1.母性看護学演習で行った看護技術を、モデル人形、模型を用いて正確かつ安全に行えるよう、実習室で十分に練習する。 「習得すべき看護技術」 ・褥婦の観察：子宮復古状態・悪露、外陰部 ・新生児の観察：身体計測・フィジカルアセスメント、抱き方、更衣、おむつ交換 ・新生児の沐浴（自己チェックリストを用いて、5 回以上練習すること） ・母乳育児支援：乳房の観察、適切なラッチ・オン、ポジショニング、排気の仕方 2. 受け持ち母子のアセスメントに必要な知識を整理し、観察時にすぐに正常範囲からの逸脱の有無等が判断できるような資料を作成する。 ・褥婦：褥婦のバイタルサインの正常範囲、経日的な子宮の大きさの変化、経日的な悪露の色と量の変化、会陰部の創傷の観察項目、肛門部の状態 ・乳房・乳輪・乳頭の観察項目、授乳時のポジショニングとラッチ・オンの観察項目、帝王切開術後の基本的な管理・ケア ・新生児：新生児のバイタルサインの正常範囲、生理的体重減少の範囲、生理的黄疸の範囲、全身の観察項目（原始反射・成熟徴候含む） 【事後課題】 その日の実習を振り返り、計画した看護目標・自己の行動目標の評価と学びを実習記録用紙に記録し、翌日の看護目標・自己の行動目標を立案する。
2 日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集する。小集団指導を見学する。カンファレンスを実施する。	
3 日目	（学内日）収集した情報の整理、アセスメント、看護過程の展開を行う。受け持ち褥婦への健康教育の企画、実施に向けて準備を行う。	
4 日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、ケアを実践しながら、看護計画を評価し修正する。カンファレンスを実施する。	
5 日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、看護計画に沿ってケアを実践する。日々の変化や退院に向けて必要時ケアを修正する。カンファレンスを実施する。	
6 日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集する。小集団指導を見学する。カンファレンスを実施する。	
7 日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、ケアを実践しながら、看護計画を評価し修正する。カンファレンスを実施する。	
8 日目	（学内日）受け持ち母子に実施したケアで深めたいテーマまたは母子のケアに関して興味のあるテーマからレポート作成し、プレゼンテーションを行う。まとめの会に向けて文献学習を行う。	
9 日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、看護計画に沿ってケアを実践する。日々の変化や退院に向けて必要時ケアを修正する。最終カンファレンスを実施し、学びを共有する。	
10 日目	まとめの会で「ケースの概要と看護に関する文献的考察」をプレゼンテーションし、実習と文献学習で深めた学びを共有する。 「母性看護学実習評価表」を用いて個別に評価面接を行う。	

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習の単位を取得していることを履修条件とする。				
【関連科目】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 母性看護学実習評価表 100%(DP3・5:到達目標 1～4 に対応)を用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	実習:母子へのケア実施前後に担当教員あるいは実習指導者が口頭で助言を行う。 実習記録:担当教員による記録へのコメントの記載あるいは口頭でコメント・助言を行う。 実習終了後、実習記録および「母性看護学実習評価表」を用いて、個別面接で担当教員から口頭でコメント・助言を行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患/百枝幹雄・山中美智子・森明子／南江堂／ISBN978-4-524-21038-1 看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクル改訂第 3 版／斎藤いずみ・長谷川ともみ・三隅順子／南江堂／ISBN978-4-524-22979-6 看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱマタニティサイクル改訂第 3 版／大平光子・井上尚美・大月恵理子・佐々木くみ子・林ひろみ／南江堂／ISBN978-4-524-22888-1				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　□B グループワーク　■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク　□E その他(　　)　□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊助産師として臨床経験豊富な教員が担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	小児看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Child Health Nursing	
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*山下早苗				
【担当教員】	*山下早苗、*上松あゆみ(外部講師)、*北山浩嗣(外部講師)、*荘司貴代(外部講師)、 *満下紀恵(外部講師)、*渡邉健一郎(外部講師)				
【授業の概要】	小児看護の基礎的知識を養うために、小児医療・看護の歴史的変遷を学び、小児看護の目的や対象について理解する。また、小児期の成長発達段階や社会制度、小児看護で必要な理論を学び、乳幼児期における成長発達の支援について理解する。さらに、小児看護の基礎的知識として小児期における代表的疾患の特徴についても学ぶ。				
【キーワード】	小児の成長発達、小児看護で必要な理論、小児を取り巻く社会制度、小児期の代表的疾患				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	成長発達段階における小児を対象とする看護の基礎的知識について修得できる。				
【授業方法】	教科書・配布資料・DVD を活用しながら、授業を進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	小児看護の歴史的変遷や目的 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 2 回	小児看護の活動の場の特徴 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 3 回	小児の成長発達:身体の構造 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 4 回	小児の成長発達:身体の機能1 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 5 回	小児の成長発達:身体の機能 2 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 6 回	乳幼児期の栄養 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 7 回	小児の成長発達評価、小児看護で必要な理論 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 8 回	小児を取り巻く社会制度と諸統計 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 9 回	小児看護の倫理 (山下早苗)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 10 回	小児期の代表的疾患:循環器・呼吸器疾患 (満下紀恵)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 11 回	小児期の代表的疾患:感染症、免疫・アレルギー性疾患 (荘司貴代)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 12 回	小児期の代表的疾患:消化器疾患、腎・泌尿器疾患 (北山浩嗣)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 13 回	小児期の代表的疾患:内分泌・代謝性疾患、先天異常 (上松あゆみ)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 14 回	小児期の代表的疾患:血液・腫瘍性疾患 (渡邉健一郎)			事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理	
第 15 回	まとめ (山下早苗)			第1～14回までの学習内容の整理と期末試験準備	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	小児看護援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 期末試験 100%(DP1-2:到達目標に対応)				
【フィードバックの	・リアクションペーパーに記載した「授業の感想と質問」のフィードバックは、授業時またはユニパで行う。				

方法】	・期末試験の結果はユニパで連絡し、希望者には試験結果を開示する。				
【テキスト】	・ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　／中野綾美　他／メディカ出版／ISBN：978-4-8404-7842-7 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論／奈良間美保　他／　医学書院／ISBN：978-4-260-05686-1 ・ナースとコメディカルのための小児科学／白木和夫、高田哲　他／へるす出版／ISBN：978-4-86719-033-3				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　□B　グループワーク　□C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師・医師として実務経験のある教員が、小児看護・小児医療における経験を生かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可（但し日本語）

【科目名】	小児看護援助論		【科目英語名】	Child Hearth Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊山下早苗				
【担当教員】	＊山下早苗、＊池田麻左子、＊丸山始美、＊梁川明				
【授業の概要】	子どもと家族の力を育むセルフケア看護を基盤とし、小児期によくみられる症状に応じた看護、経過別（急性期・回復期・慢性期・終末期）看護、ハイリスク新生児や障がいがある子どもの看護など、具体的方法を学ぶ。				
【キーワード】	子ども、家族、成長発達、セルフケア看護				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 小児期の代表的な症状や状態別看護の基礎的知識を修得できる。 2. 小児期各期の特徴を踏まえたセルフケア看護の基礎的知識を修得できる。 3. 小児を取り囲む教育・地域・社会資源の現状や活用に関する基礎的知識を修得できる。				
【授業方法】	オリエンテーションは初回冒頭に行う。講義は、教科書と配布資料の両方を使用する。講義内で動画視聴やグループワークを行うこともある。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	症状別看護 1（痛み） （山下早苗）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 2 回	症状別看護 2（発熱・発疹） （山下早苗）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 3 回	症状別看護 3（脱水） （梁川明）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 4 回	症状別看護 4（呼吸困難・意識障害・ショック） （丸山始美/梁川明）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 5 回	手術をうける子どもの看護（先天性心疾患）（消化器疾患） （池田麻左子）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 6 回	急性期から回復期に移行していく子どもの看護（川崎病・気管支喘息）（丸山始美/梁川明）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 7 回	ハイリスク新生児の看護 （池田麻左子）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 8 回	医療的ケアを必要とする子どもの看護 （池田麻左子）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 9 回	きょうだい支援とヤングケアラー （池田麻左子）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 10 回	慢性疾患を持って生涯を生きていく子どもの看護（血液疾患・腎疾患・1 型糖尿病）（梁川明）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 11 回	終末期にある子どもの看護（小児がん） （丸山始美/山下早苗）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 12 回	発達障害や虐待を受けた子どもの看護 （池田麻左子/ゲストスピーカー）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 13 回	成人医療移行支援 （山下早苗/ゲストスピーカー）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 14 回	外来看護 （池田麻左子/ゲストスピーカー）			事前：教科書の該当ページを予習する。 事後：配布資料をもとに復習する。	
第 15 回	まとめ （山下早苗）			第 1 回～14 回までの学習内容の整理と期末試験準備	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	「小児看護学概論」を履修し、単位を取得していること。				
【関連科目】	小児看護学概論、小児看護学演習、小児看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 期末試験 100%（DP1-2：到達目標 1、2、3 に対応）				

【フィードバックの方法】	リアクションペーパーへの質問には、講義内で説明あるいは書面でコメントを返す。				
【テキスト】	・ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　／中野綾美　他／メディカ出版／ISBN：978-4-8404-7842-7 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論／奈良間美保ほか／　医学書院／ISBN：978-4-260-05686-1 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論／丸光恵ほか／　医学書院／ISBN：978-4-260-05685-4				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師業務経験を有する教員が、小児看護の経験を生かして講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可（但し日本語）

【科目名】	小児看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Child Health Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊山下早苗				
【担当教員】	＊山下早苗、＊池田麻左子、＊丸山始美、＊梁川明、＊松平千佳				
【授業の概要】	小児看護では、子どもの成長発達を踏まえ、疾患や障がいをもつ子どもと家族の状態を理解し、その状態に応じた看護実践を行う必要がある。さらに、子どもの権利や子どもや家族への倫理的配慮を考慮しながら、看護することが重要である。本授業は、疾患や障がいをもつ子どもと家族に対するセルフケア理論を用いた看護過程の展開方法を学ぶ。また、小児看護における基礎的看護技術を学修する。				
【キーワード】	小児看護技術、小児看護過程、子どもと家族への倫理的配慮				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 疾病や障がいをもつ子どもの模擬事例を用いて、セルフケア理論に基づいた看護展開（アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案）ができる。 2. グループワークを通して、子どもに適した看護を説明できる。 3. 小児看護における基礎的看護技術を修得できる。 4. 子どもの権利や倫理的配慮を意識した子どもへの看護を説明できる。				
【授業方法】	授業は講義・技術演習・課題学習（事例検討・事例発表）により行う。 技術演習は小児看護において日常的に実施されやすい看護技術を学ぶ。必要に応じて各演習の前週または当日に、必要な資料の配布および説明を行う。教科書の AR や動画を使用する。 課題学習は動画による模擬事例を基に、個人及びグループワークを行い、事例発表にて発表する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	セルフケア理論に基づいた子どもと家族の看護過程 （山下早苗）			事前：小児看護学概論・援助論の内容を復習する 事後：ガイダンス資料を見直し、示された事前課題を実施する	
第 2 回	こどもとのコミュニケーションと遊びの世界 1 （松平千佳）			事前：該当内容を予習する 事後：授業で学んだ内容を復習する	
第 3 回	こどもとのコミュニケーションと遊びの世界 2 （松平千佳）			事前：該当内容を予習する 事後：授業で学んだ内容の復習する	
第 4 回	バイタルサイン測定（技術演習 1） （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：発達に応じた小児の VS 測定方法や正常値について予習する 事後：授業で学んだ内容を復習する	
第 5 回	身体計測（技術演習 2） （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：発達に応じた小児の身体測定の方法や正常値について予習する 事後：授業で学んだ内容を復習する	
第 6 回	安全な療育環境の管理と患者搬送（技術演習 3） （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：療育環境の管理や点滴中の小児の搬送について予習する 事後：授業で学んだ内容を復習する	
第 7 回	小児の BLS とKYT（危険予知訓練）（技術演習 4） （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：小児の BLS について予習する 事後：授業で学んだ内容を復習する	
第 8 回	輸液管理（技術演習 5） （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：小児の輸液管理の方法を予習する 事後：授業で学んだ内容を復習する	
第 9 回	事例検討：疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 1 （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明			事前：動画の事例による看護展開を行う 事後：看護展開を行う	
第 10 回	事例検討：疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 2 （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：看護展開を行う 事後：看護展開を行う	
第 11 回	事例検討：疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 3 （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：看護展開を行う 事後：看護展開を行う	
第 12 回	事例検討：疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 4 （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：看護展開を行う 事後：看護展開を行う	
第 13 回	事例検討：疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 5 （山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明）			事前：看護展開を行い、発表の準備をする 事後：看護展開を行い、発表の準備をする	

第 14 回	事例発表:疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 6 (山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明)	事前:発表の準備をする 事後:発表会から学んだ内容について復習する
第 15 回	事例発表:疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 7 (山下早苗・池田麻左子・丸山始美・梁川明)	事前:発表の準備をする 事後:発表会から学んだ内容について復習する

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	「小児看護学概論」を履修し、単位を取得していること。 講義で学習したことを踏まえて積極的に自己学習する姿勢を前提とする。				
【関連科目】	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 レポートおよび看護技術チェックリスト 50%(DP2:到達目標 3、4 に対応)、看護過程における記録と発表 50%(DP2:到達目標 1、2、4 に対応)とし、総合評価する。評価基準は初回に説明する。				
【フィードバックの方法】	・質問には、講義内で説明あるいは Teams でコメントを返す。 ・提出した看護過程、課題レポート、技術チェックリストは、実習時に学生に返却し、実習時に活用する。				
【テキスト】	ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術/中野綾美 他/メディカ出版/ISBN 978-4-8404-7843-4				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊小児看護の経験のある教員が実務経験を生かして演習を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(但し日本語)

【科目名】	小児看護学実習		【科目英語名】	Practice in Child Health Nursing	
【開講時期】	3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊山下早苗				
【担当教員】	＊山下早苗、＊池田麻左子、＊丸山始美、＊梁川明				
【授業の概要】	疾患や障害を持つ成長発達過程にある子どもを受け持ち、子どもと家族のセルフケアを支える看護実践能力を身に着けることができる。療養中の子どもの権利について治療と療育の両側面から課題を見出し議論することにより、小児看護実践における倫理的感受性を身に着けることができる。さまざまな状況にある子どもや家族が示す反応の意味をとらえ、最も望ましい療育環境を整備することができる。既習の知識・技術を基盤としチーム医療の一員として関連する地域や教育、福祉、保健などの現状や課題について考えることができる。				
【キーワード】	小児看護実践能力、道徳的感受性、セルフケア理論				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　□DP4　□DP5　□DP				
【到達目標】	1. 子どもの成長発達段階および健康状態について記述できる。 2. 子どもを養育する家族の状況について記述できる。 3. 発達段階に応じたコミュニケーションの方法を工夫し、子どもと良い対人関係を形成できる。 4. 子どもを取り巻く環境を理解し、家族と良い対人関係を形成できる。 5. 子どもを中心としたチーム医療であることを理解し、医療関係者（教員を含む）とも良い対人関係を形成できる。 6. セルフケア理論に基づいて情報を収集し、アセスメントできる。 7. 子どもと家族のセルフケア能力を支援する看護計画を立案し、実践評価できる。 8. 子どもや家族の反応を観察しながら看護実践できる。 9. 安全安楽な看護実践ができる。 10. チーム医療の一員として報告・連絡・相談ができる。 11. 子どもを対象とする外来および新生児未熟児病棟における看護の実際について記述できる。 12. 倫理的課題に気づき、カンファレンスで討議することができる。				
【授業方法】	1. 実習期間は 2 週間で「静岡県立こども病院」で実習を行う。 2. 入院している子どもを受け持ち実習を行う。 3. セルフケア理論を用いた思考の整理を行う。 4. 臨床指導看護師から助言を受けて看護師とともに小児看護実践を行う。 5. 小児看護実践に伴い発生する倫理的課題を見出し、グループで討議する。 6. カンファレンスを行い、集団学習する。 7. 外来看護の実際を見学する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1 日目　AM：実習オリエンテーション PM：病棟オリエンテーション・患児紹介・情報収取 2 日目　AM：病棟実習 PM：病棟実習・グループカンファレンス 3 日目　学内実習日（情報の整理・アセスメント・関連図作成） 4 日目 AM：外来見学実習 PM：病棟実習・グループカンファレンス			【事前課題】「成長発達」「セルフケア理論」「小児期の遊び」 入院患者に多く見られる疾患とその看護 （感染症疾患、内分泌・代謝性疾患 自己免疫性疾患、腎疾患、腫瘍性疾患 先天性心疾患・呼吸器疾患 消化器疾患、骨・神経疾患） 【事後課題】患児の病態生理・治療の内容についてのまとめ、翌日の実習計画立案 【事前課題】患児に関する看護上必要な情報 【事後課題】各アセスメント項目に基づいた情報を分類し不足情報の整理 【事前課題】アセスメントの統合 【事後課題】関連図作成、翌日の実習計画立案 【事前課題】小児科外来と新生児未熟児病棟に関する学習 【事後課題】見学実習のまとめ（実習記録用	

		紙Ⅶに記載)、翌日の実習計画立案
	5 日目 AM:病棟実習 PM:病棟実習・グループカンファレンス(関連図の発表)	【事前課題】関連図の完成・カンファレンス資料・発表準備 【事後課題】関連図の修正、ケアプランの立案、翌日の実習計画立案
	6 日目 AM:病棟実習 PM:病棟実習・グループカンファレンス (ケアプランの発表)	【事前課題】ケアプランの完成、カンファレンスでの発表準備 【事後課題】ケアプランの見直し、翌日の実習計画立案
	7 日目 AM:病棟実習 PM:病棟実習・グループカンファレンス	【事前課題】グループカンファレンスの議題準備 【事後課題】ケアプランの見直し、翌日の実習計画立案
	8 日目 学内学習日(看護計画の評価と修正)	【事前課題】実習期間中に感じた倫理的課題の記載(実習記録用紙Ⅷ) 【事後課題】翌日の実習計画立案
	9 日目 AM:病棟実習 PM:病棟実習・グループカンファレンス(小児看護実践のおける倫理について)	【事前課題】グループカンファレンスの準備 【事後課題】翌日の実習計画立案、記録のまとめ
	10 日目 AM:病棟実習・最終グループカンファレンス PM:教員と実習のまとめ・記録提出	【事前課題】要約(実習記録用紙Ⅵ)の記載 【事後課題】教員との実習まとめについて振り返り

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	・「小児看護学概論」「小児看護援助論」「小児看護学演習」を履修し、単位を取得していること ・4 種感染症(麻疹・水痘・風疹・流行耳下腺炎)に関して、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン」基準を満たしていること				
【関連科目】	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護学演習				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 3/4 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 小児看護学実習評価表(コミュニケーション能力・対象理解・思考の整理・看護実践・看護の課題に対する看護実践能力)100%(DP3:到達目標 1~12 に対応)に基づき総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	記載した実習記録やカンファレンスでの発言の内容から、実習に関する疑問点や質問をピックアップし、実習中に回答あるいはともに熟考する。適宜面談を行い、口頭での質問には随時答える。				
【テキスト】	適宜紹介する				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊小児看護の実務経験がある教員が、経験を活かした実習指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	精神看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing	
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊佐藤浩一				
【担当教員】	＊佐藤浩一、＊篁宗一、 ＊近藤美保、 ＊小泉祐貴、＊予定教員 ＊非常勤講師(精神科医師) 、＊外部講師				
【授業の概要】	精神疾患の特徴や治療・看護の基本的知識を学ぶことで、精神科看護を理解する基盤となる力を身につける。さらに、社会や地域における精神保健の維持・向上についての各種知識を学ぶことで、入院中及び地域で生活する精神障害者を多角的視点から捉える力や、社会一般の人々の精神保健の維持・向上について考える力を養う。				
【キーワード】	精神医学、精神保健、精神看護、当事者理解				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 精神医学の基本的知識を理解し、各種精神疾患における精神症状や治療等について説明できる。 2. 社会の中で必要な精神保健や、看護援助についての基本的知識を理解し、説明できる。 3. 社会の動向の中での精神医学・看護の政策や今度の課題について、学習した知識を基に考え、説明することができる。				
【授業方法】	講義が中心であるが、講義内容に応じてグループワークや演習等を取り入れる。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	精神看護学概論の総論と授業日程等について （佐藤浩一）			事前:精神医学について教科書での予習 事後:リアクションペーパーの提出	
第 2 回	精神医学概論～「こころ」とは, 「こころ」の病とは（精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 3 回	精神科の診察, 精神医療① （精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 4 回	精神医療② （精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 5 回	心因性精神障害～神経症, 心因性精神病等(精神科医師)			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 6 回	外因性精神障害～器質精神病, 症状精神病 （精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 7 回	その他の精神障害～パーソナリティ障害等 （精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 8 回	内因性精神障害～統合失調症, 気分障害 （精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 9 回	これからの精神医療 （精神科医師）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 10 回	職場の精神保健 （篁宗一）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 11 回	精神障害を有する当事者のお話 （＊外部講師）			事前:事例配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 12 回	摂食障害と看護 （近藤美保）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 13 回	災害時のメンタルヘルス （小泉祐貴 ）			事前:事前配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 14 回	精神看護の動向等について （予定教員）			事前:事例配信資料の確認 事後:リアクションペーパーの提出	
第 15 回	まとめ(篁宗一・近藤美保 ・小泉祐貴・佐藤浩一・予定教員)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	精神看護援助論、精神看護学演習、精神看護学実習				

【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート 60%(DP1-2 及び DP5:到達目標 1～3 に対応)、課題学習 40%(DP1-2 及び DP5:到達目標 1～3 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	・授業についての質問等は、授業終了時に実施する、またはユニパの Q&A を用いて回答する。 ・レポート課題は、評価終了後、教員より課題の意図と考察のポイント等を解説して配信する。				
【テキスト】	精神看護学[1]精神保健学(第 6 版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-064-0 精神看護学[2]精神臨床看護学(第 6 版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-065-7				
【参考図書】	上島国利・他: 精神医学テキスト(改訂第5版)/ 南江堂				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等がその経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	講義の順番等、講義予定は変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	精神看護援助論		【科目英語名】	Psychiatric and Mental Health Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊近藤美保				
【担当教員】	＊近藤美保、＊篁宗一、 ＊小泉祐貴、 ＊佐藤浩一、＊予定教員、＊外部講師				
【授業の概要】	精神科臨床現場における精神疾患患者の特性や治療及び看護援助に関する基本的知識を学び、習得する。さらに、個人及び集団の精神保健の維持・向上へ向けた各種取り組みについて学び、精神保健医療福祉の動向や課題に関心を持って看護援助を考える姿勢を養う。				
【キーワード】	精神疾患患者の理解、看護援助、地域生活支援				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 精神疾患患者の特性や、治療及び看護援助について理解を深め、説明することができる。 2. 地域で暮らす精神障害者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的知識を理解し、説明できる。				
【授業方法】	講義・グループワーク・課題学習を併用して授業を進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	精神看護学コースガイダンス 精神保健の課題：嗜癖（篁宗一）			事前 概論の講義資料等を復習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 2 回	おもな精神科治療と看護（佐藤浩一）			事前 概論の講義資料等を復習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 3 回	統合失調症患者の看護（小泉祐貴）			事前 統合失調症について復習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 4 回	気分障害患者の看護（近藤美保）			事前 気分障害について復習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 5 回	発達障害と看護（近藤美保）			事前 発達障害について復習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 6 回	精神保健医療福祉サービス（予定教員）			事前 精神保健福祉の動向を調べる。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 7 回	精神科看護の実践現場（＊外部講師）			事前 精神保健福祉法について復習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。	
第 8 回	まとめ（篁宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一・予定教員）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	精神看護学概論、精神看護学演習、精神看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 定期試験 70%（DP1-2:到達目標 1～2 に対応）、課題レポート 30%（DP5:到達目標 1～2 に対応）で評価する。				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 レポート課題はユニパの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントをする。				
【テキスト】	精神看護学[1]精神保健学（第 6 版）／吉松和哉／ヌーヴェルヒロカワ／978-4-86174-064-0 精神看護学[2]精神臨床看護学（第 6 版）／川野雅資／ヌーヴェルヒロカワ／978-4-86174-065-7				
【参考図書】	授業中に適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ）				
【実務経験のある教員による授業】	＊メンタルヘルスにかかわる保健師や看護師等が、その経験を活かして講義を行う。				
【その他】	原則として対面で実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	精神看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊小泉祐貴				
【担当教員】	＊小泉祐貴、＊篁宗一、＊近藤美保、＊佐藤浩一、＊予定教員、外部講師（＊2 名・他）				
【授業の概要】	個人および集団の精神保健の維持・向上に寄与するために、豊かな人間性と倫理観をもち、精神疾患をもつ対象への看護援助が根拠をもとに判断ができるようになる。				
【キーワード】	精神科看護の実践、精神保健医療福祉の現状、当事者理解				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　■DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1.精神科医療機関の現状について知見を深め、課題と倫理観を述べることができる。 2.精神疾患をもつ対象者を、生活者として多面的に理解して述べることができる。 3.オレム・アンダーウッド理論に基づいた、看護過程の展開ができる。				
【授業方法】	オリエンテーション、講義、配布資料の使用、精神科病院見学、グループワークを通して行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授業・病院見学オリエンテーション（小泉祐貴）			事前：概論と援助論の講義資料を復習する 事後：配布資料の復習	
第 2 回	病院見学実習①（全精神看護学教員）			事前：事前配信資料の確認 事後：提出課題に取り組む	
第 3 回	病院見学実習②（全精神看護学教員）			事前：事前配信資料の確認 事後：提出課題に取り組む	
第 4 回	病院見学実習まとめ　グループワーク（全精神看護学教員）			事前：事前配信資料の確認 事後：提出課題に取り組む	
第 5 回	病院見学実習まとめ　発表会（全精神看護学教員）			事前：提出課題をもとに発表準備をする 事後：課題提出	
第 6 回	司法精神看護（外部講師）			事前：事前配布資料の確認 事後：リアクションペーパー提出	
第 7 回	ゲートキーパー自殺予防（外部講師）			事前：事前配布資料の確認 事後：リアクションペーパー提出	
第 8 回	性同一性障害について（外部講師）			事前：事前配布資料の確認 事後：リアクションペーパー提出	
第 9 回	精神疾患をもつ対象と家族（外部講師）			事前：事前配布資料の確認 事後：リアクションペーパー提出	
第 10 回	看護過程①（小泉祐貴）			事前：事例の看護過程展開（各自） 事後：グループ資料作成	
第 11 回	看護過程②（近藤美保）			事前：事例の看護過程展開（各自） 事後：グループ資料作成	
第 12 回	看護過程③（佐藤浩一）			事前：事例の看護過程展開（各自） 事後・グループ資料作成	
第 13 回	プロセスレコードの目的と意義/患者とのコミュニケーション場面を想定し、プロセスレコードを用いて振り返る（予定教員）			事前：事前配布資料の確認 事後：リアクションペーパー提出	
第 14 回	精神科における隔離拘束、心理検査、箱庭の体験 （全精神看護学教員）			事前：事前配布資料の確認 事後：リアクションペーパー提出	
第 15 回	まとめ（篁宗一・近藤美保 ・小泉祐貴・佐藤浩一・予定教員）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	精神看護援助論、精神看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題学習 80%（DP2：到達目標 1～2 に対応）、課題学習 20%(DP3：到達目標 3 に対応）を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーへの質問には、講義中に説明、または Teams・メールでコメントする。 ・課題に対して講義中に解説する。				
【テキスト】	精神看護学[1]精神保健学（第 6 版）/吉松和哉/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-064-0				

	精神看護学[2]精神臨床看護学(第 6 版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-065-7				
【参考図書】	適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他(　　) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして演習を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	精神看護学実習		【科目英語名】	Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing	
【開講時期】	3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊近藤美保				
【担当教員】	＊近藤美保、＊篁宗一、 ＊小泉祐貴、＊佐藤浩一 、＊予定教員				
【授業の概要】	1. 医療施設における対象者(精神的健康障害を持つ人)との関わりを通して、治療的人間関係(患者―看護師関係)について学び、対象者を多角的視点から理解し、支援できる能力を養う。 2. 作業所における対象者との関わりや社会復帰施設見学を通して、対象者が地域で生活していく上で抱えている課題や、社会復帰をサポートするためのサポート・システム、社会資源、看護師の役割について学び、支援できる能力を養う。				
【キーワード】	精神的健康障害、 治療的人間関係、 社会復帰施設、 サポート・システム、 社会資源				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
(到達目標)	1. 対象者(精神的健康障害を持つ人)を生活者(医療施設内・地域)として捉え、精神を病むということを多角的視点から理解し、説明することができる。 2. 対象者の社会復帰や家族を支援するためのサポート・システム、精神保健医療福祉における他職種との連携・協働、看護の役割について理解し、支援を考えることができる。 3. 対象者との関わりを通して、治療的人間関係の形成や、対象者と自己の間の相互作用について理解し、自己洞察することができる。 4. 対象者と家族の心理を思いやり、尊厳を重んじる態度をとることができる。 5. 入院時から退院後の生活を見据え、対象者の回復過程を支える看護を考え、退院支援の視点をもって関わることができる。				
【授業方法】	精神科医療施設や作業所において、対象者と実際に関わりながら、記録やカンファレンスを通して、学びを深める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. 医療施設において 1) オリエンテーション (病院・病棟) 2) 関わりの中心となる患者 (受け持ち患者)の選定 3) 患者との関わり (個別・集団) 4) カンファレンス 5) 実習記録の記載 6) 実習のまとめ 2. 作業所において 1) オリエンテーション (作業所) 2) 通所者との関わり (個別・集団) ※グループホーム等の見学が入る場合もあり 3) カンファレンス (実習のまとめ) 3. 全体反省会 (最終日・学内) 4. 実習記録物・課題レポート等の提出			事前課題: 1・2 については、事前に「精神看護学概論」「精神看護援助論」「精神看護学演習」等で学んだ知識(疾患・治療・看護・社会資源等)を復習しておく。適宜、授業で配布された資料・教科書・参考書等を活用する。 3 については、実習期間に学んだことを整理し、自分の考えをまとめておく。 4 については、実習期間全体の中で、体験したことを活かしながら記録を行っていく。 事後課題: 実習全体を通して学んだことを整理し、知識等の不足部分を補い、精神障害者に対応する際の配慮や、理解を深めるための視点を振り返る。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	「精神看護援助論」「精神看護学演習」の単位を取得していること。				
【関連科目】	「人間関係論Ⅰ」「人間関係論Ⅱ」「精神看護学概論」「精神看護援助論」「精神看護学演習」				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 実習評価表を基に、総合的に評価する。(DP3 80%、DP5 20% :到達目標 1～4 に対応)				
【フィードバックの方法】	・実習施設内での学生カンファレンスの場で、臨床指導者や教員からのアドバイスを受ける。 ・日々の記録等に対する、臨床指導者や教員からのコメントを通してアドバイスを受ける。				
【テキスト】	精神看護学[1]精神保健学(第 6 版)/吉松和哉/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-064-0 精神看護学[2]精神臨床看護学(第 6 版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-065-7				
【参考図書】	精神看護学関連の授業において配布された各種資料				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				

【実務経験のある教員による授業】	＊メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして実習指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	地域包括ケア		【科目英語名】	Community-based integrated care	
【開講時期】	1 年生後期/編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊冨安眞理				
【担当教員】	＊冨安眞理、＊加納江理、＊予定教員、＊山本祐子、＊予定教員、遠藤博之(外部)				
【授業の概要】	地域住民を中心とした地域包括ケアの取り組みを理解し、住み慣れた地域で自分らしく最期まで暮らすことができる看護支援と多職種連携を実践する基礎的能力を修得する。				
【キーワード】	地域住民、地域包括ケア、看護支援、多職種連携				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　□DP3　■DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 地域包括ケアの概念を理解し、地域住民も多職種チームの一員であることを的確に伝えることができる。 2. 疾病や障害とともに生活する人々を支える看護専門職の役割・機能について理解し、説明できる。 3. 地域住民を中心とした健康支援についてグループワークで討議し、成果発表会で表現できる。				
【授業方法】	講義、グループワーク				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	住み慣れた地域で生活を継続できる看護支援 (冨安眞理) グループワーク事前オリエンテーション			事前:動画視聴 事後:自己学習計画を立案する	
第 2 回	静岡型地域包括ケアシステム (静岡市)			事前:配布資料の内容をまとめる 事後:ミニレポートをユニパ①に提出する	
第 3 回	地域包括ケアにおける看護職の役割(外部講師)			事前:配布資料の内容をまとめる 事後:ミニレポートをユニパ②に提出する	
第 4 回	静岡市における介護予防事業 その 1 (リハ・パークしずおか)			事前:配布資料の内容をまとめる 事後:ミニレポートをユニパ③に提出する	
第 5 回	静岡市における介護予防事業 その 2(リハ・パークしずおか)				
第 6 回	終末期療養者とその家族における意思決定支援 (外部講師) 小テスト			事前:配布資料の内容をまとめる 事後:ミニレポートをユニパ④に提出する	
第 7 回	終末期療養者とその家族を中心とした在宅医療・介護連携 (遠藤博之)			事前:配布資料の内容をまとめる 事後:ミニレポートをユニパ⑤に提出する	
第 8 回	多職種連携を促進するチームワークトレーニング(冨安眞理)			事前:チーム STEPPS のスキルをまとめる 事後:スキルを GW に活用する	
第 9 回	グループワーク 1 (冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員)			事前:プログラムに必要な知識を調べる 事後:共有した知識をプログラムに反映する	
第 10 回	グループワーク 2 (冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員)				
第 11 回	グループワーク 3 (冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員)				
第 12 回	成果発表会 (冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員)			事前:成果発表の準備を行う 事後:ミニレポートをユニパ⑥に提出する	
第 13 回	成果発表会 (冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員)				
第 14 回	成果発表会(冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員)				
第 15 回	まとめ(冨安眞理)			課題レポートをユニパに提出する	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	公衆衛生看護学概論、地域家族支援論、在宅看護学概論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。第 1 回目に評価基準はルーブリックを用いて示す。小テスト 20%(DP4:到達目標 1 に対応)、成果発表 40%(DP4:到達目標 1・3 に対応)、課題レポート 40%(DP4、DP5:到達目標 1～2 に対応)により総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	第 1 回目に、成果発表、課題レポートについて、フィードバックの方法を説明する。				
【テキスト】	静岡市健康長寿まちづくり計画、静岡市介護保険その他 第 1 回目で資料を配布する。				
【参考図書】	チーム STEPPS ポケットガイド 第 1 回目に配布する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他(　　)　□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊地域での実践活動の経験を有する教員及び地域包括ケアにおける実践活動を行う外部講師が、講義を担当する。				
【その他】	学生は、講義・アクティブラーニングに主体的に取り組むことが求められる。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	災害看護セミナー		【科目英語名】	Seminar in Disaster Nursing	
【開講時期】	2年後期／編入4年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊根岸まゆみ				
【担当教員】	＊根岸まゆみ、＊竹熊カツマタ麻子、＊千原幸司（非常勤）				
【授業の概要】	平常時、発災直後（急性期）、亜急性期、復旧・復興期のうち、特に発災後の急性期・亜急性期における状況や健康問題を理解し、必要な看護技術の判断をすることができる。さらに、一住民及び看護職者として平常時からの準備・心構えについて検討し、災害時に学生・看護職者としてできることを判断することができる。				
【キーワード】	災害医療、災害看護、国際救助				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　□DP3　■DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 大地震における医療的支援の実際を説明できる 2. 救急時に必要な基本技術を実践できる 3. トリアージ法を説明できる 4. 災害発生時・後のメンタルヘルス対策を説明できる 5. 災害発生以降に、看護学生として平常時も含め一住民としての対応や備えについて考察できる				
【授業方法】	講義、COIL 授業、演習、グループディスカッション・プレゼンテーション・フィールドワーク、課題学習を併用して実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	授業ガイダンス・課題説明（根岸まゆみ）、静岡県における災害医療体制（静岡県地震防災センター所長）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第2回	災害時の補備、平常時に看護学生・一住民としてできること（防災士によるゲスト講義）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第3回	自主防災組織災害対応訓練の実践（根岸まゆみ、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第4回	自主防災組織災害対応訓練の実践とまとめ（根岸まゆみ、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第5回	災害時の臨床判断　（根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第6回	国内外の災害救護活動の事例報告 （ゲスト講師、根岸まゆみ）			事前：教科書「第3章　地震災害看護の展開のABC」「第4章国際看護のGH」を通読 事後：課題レポート提出	
第7回	避難所運営シミュレーションの実践：（根岸まゆみ、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第8回	避難所運営シミュレーションの実践とまとめ（根岸まゆみ、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第9回	災害時のフィジカルアセスメント　（ゲスト講師、竹熊カツマタ麻子）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第10回	災害時のトリアージ　（千原幸司、竹熊カツマタ麻子） 体育館：グループA（履修生の半数）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第11回	災害時の包帯法・運搬法（根岸まゆみ） 教育棟254講義室：グループB（履修生の半数）			事前：教科書「付録　資料1　応急処置・搬送方」を参考に、包帯法の練習をする 事後：演習で実施した包帯法の復習	
第12回	災害時のトリアージ　（千原幸司、竹熊カツマタ麻子） 体育館：グループB（履修生の半数）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第13回	災害時の包帯法・運搬法（根岸まゆみ） 教育棟254講義室：グループA（履修生の半数）			事前：教科書「付録　資料1　応急処置・搬送方」を参考に、包帯法の練習をする 事後：演習で実施した包帯法の復習	
第14回	海外における災害看護活動と災害看護師の役割（COIL 授業：ゲスト講師、根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第15回	まとめ（根岸まゆみ）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				

【履修条件】	国際保健・災害看護論の履修				
【関連科目】	国際保健・災害看護論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート 40%(DP5:到達目標 1～5 に対応)、演習実践 40%(DP4、PD5:到達目標 1～5 に対応)、グループ発表 20%(DP5:到達目標 1～5 に対応)、全ての採点基準はルーブリックを用いる。				
【フィードバックの方法】	課題レポート、グループワーク、グループ発表へのフィードバックは授業時に口頭で行う。				
【テキスト】	系統看護学講座　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践③／浦田喜久子・小原真理子他 (2022) ／医学書院／ISBN 978-4-260-03570-5				
【参考図書】	Where there is no doctor: Village health care handbook／David Werner／Macmillan Education／ISBN-13: 978-0-333-51651-5 ほか講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション ■D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊国内外で看護師または医師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義を実施する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	事前面談必要	【科目等履修生】	事前面談必要	【交換留学生】	事前面談必要

【科目名】	地域家族支援論		【科目英語名】	Community-based Family Nursing	
【開講時期】	2 年後期/編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊冨安眞理				
【担当教員】	＊冨安眞理、＊加納江理、＊山本祐子、＊予定教員				
【授業の概要】	健康問題をもつ地域で生活する個人とその家族は相互に作用し、身体的、精神的、社会的影響を与え合うことを理解する。そして、個人を含めた家族を一つの対象として、家族の発達課題と健康問題の二つの側面から、家族が本来持っているセルフケア能力を高める看護過程の展開方法を修得する。				
【キーワード】	地域、家族看護　セルフケア能力				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 日本における家族の変遷と現代家族の特徴を理解できる。 2. 家族看護の定義と家族を理解するための諸理論を述べることができる。 3. 情報収集の内容や家族看護過程を理解し、家族看護アセスメントモデルを用いて事例検討ができる。				
【授業方法】	講義、グループワーク				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	現代の家族の特徴と健康課題 （冨安眞理）			事前：動画視聴 事後：自己学習計画を立案する	
第 2 回	家族看護における家族理解 （冨安眞理）			事前：テキスト内容の予習 事後：ミニレポートをユニパ①に提出する	
第 3 回	家族理解の理論—家族発達理論、家族ストレス対処理論、家族システム論 （冨安眞理）			事前：テキスト内容の予習 事後：ジェノグラムの描き方を習得する	
第 4 回	家族看護の看護過程 1—情報集、アセスメント （冨安眞理）			事前：テキスト内容の予習 事後：課題レポートをユニパ②に提出する	
第 5 回	家族看護の看護過程 2—支援、評価 （冨安眞理） 第 11-14 回　事例検討　事前オリエンテーション			事前：テキスト内容の予習 事後：事例検討の学習計画を立案する	
第 6 回	家族の発達段階に応じた家族看護 1 （外部講師） —幼児期、学童期、思春期の子どものいる家族への支援			事前：テキスト内容の予習 事後：ミニレポートをユニパ③に提出する	
第 7 回	家族の発達段階に応じた家族看護 2 （外部講師） —成熟期の家族員のいる家族への支援			事前：テキスト内容の予習 事後：ミニレポートをユニパ④に提出する	
第 8 回	家族看護の実際 1 （加納江理） —急性期（から退院支援）の健康問題を抱えた家族への支援			事前：テキスト内容の予習 事後：配布資料をまとめる	
第 9 回	家族看護の実際 2 （外部講師） —慢性期の健康問題や障害を抱えた家族への支援			事前：テキスト内容の予習 事後：課題レポートをユニパ⑤に提出する	
第 10 回	家族看護の実際 3 （外部講師） —在宅看護における家族への支援			事前：テキスト内容の予習 事後：配布資料をまとめる	
第 11 回	事例検討 （冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員）			事前：事例検討に必要な知識を調べる 事後：共有した知識を事例検討に反映する	
第 12 回	事例検討 （冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員）				
第 13 回	グループワーク発表準備 （冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員）			事前：成果発表の準備を行う 事後：ミニレポート⑥をユニパに提出する	
第 14 回	グループワーク発表 （冨安眞理、加納江理、山本祐子、予定教員）				
第 15 回	まとめ（冨安眞理）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	人間関係論 I を履修していること。				
【関連科目】	地域包括ケア、在宅看護学概論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 課題レポート、成果発表の評価方法は、第 1 回目にルーブリックを用いて示す。 課題レポート 30%（DP1-2、DP5：到達目標 1～2 に対応）、成果発表 20%（DP1-2、DP5：到達目標 3 に対応） 定期テスト 50%（DP1-2：到達目標 1～3 に対応）により総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	第 1 回目で、ミニレポート、成果発表、課題レポートについて、フィードバックの方法を説明する。				

【テキスト】	家族看護学(理論と実践　第6版)／鈴木和子ほか／日本看護協会出版会／ISBN978-4-8180-2940-8				
【参考図書】	適宜、紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊訪問看護師や看護師としての経験を有する教員が、地域家族支援論に必要な基礎的知識と家族を対象とした看護支援を講義する。				
【その他】	学生は、講義・アクティブラーニングに主体的に取り組むことが求められる。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	在宅看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Home Healthcare Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊冨安眞理				
【担当教員】	＊冨安眞理、＊加納江理、＊山本祐子、＊予定教員				
【授業の概要】	疾病や障害とともに地域・在宅で生活する人々とその家族を理解する。人々の療養生活の質向上に貢献するために必要となる、知識・看護技術・資源開発等の看護実践を展開する基礎的能力を修得する。				
【キーワード】	在宅療養者、家族、在宅看護				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1.疾病や障害をもちながら地域・在宅で生活する人々とその家族を理解し、関心を持つことができる。 2.人々の療養生活の質向上に影響を及ぼす療養の場や多職種連携、社会保障制度を理解できる。 3.療養生活支援に必要な知識、スキルを用いた在宅看護過程の展開を説明できる。				
【授業方法】	講義、グループワーク				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	Ⅰ．在宅看護の概要 在宅看護の目的と特徴 （冨安眞理）			事前：テキスト内容の予習 事後：自己学習計画を立案する	
第 2 回	在宅看護にかかわる社会制度とシステム （加納江理）			事前：介護保険制度の復習 事後：テキストの内容をまとめる	
第 3 回	地域共生社会における多職種連携・療養生活支援（外部講師）			事前：テキスト内容の予習 事後：ミニレポートをユニパ①に提出する	
第 4 回	地域・在宅における時期別の看護 （予定教員）			事前：テキスト内容の予習 事後：小テストの出題範囲を復習する	
第 5 回	Ⅱ．在宅看護における基本的知識と理解 在宅看護過程の理解 （冨安眞理）			事前：テキスト内容の予習 事後：課題レポートをユニパ②に提出する	
第 6 回	在宅療養者の基本的生活行動への支援 （冨安眞理） 療養環境調整 ／ 清潔 ／ 休息　小テスト（15 分）			事前：テキスト内容の予習 事後：小テストの出題範囲を復習する	
第 7 回	在宅療養者の基本的生活行動への支援 （山本祐子） 食生活・嚥下 ／ 排泄			事前：テキスト内容の予習 事後：1-6 回配布資料の内容をまとめる	
第 8 回	在宅療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 （予定教員）			事前：小テストの出題範囲を復習する 事後：ミニレポートをユニパ③に提出する	
第 9 回	医療管理を必要とする人々への療養生活支援 1 （加納江理） ― 服薬支援、栄養管理（経管栄養法・HPN）、呼吸管理、			事前：テキスト内容の予習 事後：ミニレポートをユニパ④に提出する	
第 10 回	医療管理を必要とする人々への療養生活支援 2 （加納江理） ― 創傷管理（褥瘡、スキンケア）、緩和ケア/終末期ケア			事前：テキスト内容の予習 事後： 配布資料の内容をまとめる	
第 11 回	医療管理を必要とする人々への療養生活支援 3 （加納江理） ― 難病看護（HOT,NPPV,TPPV） ／ 在宅看護の質保証			事前：呼吸管理、栄養管理の復習 事後：7-10 回配布資料の内容をまとめる	
第 12 回	医療管理を必要とする人々への療養生活支援 4 （外部講師） ― 障害児・者の呼吸 ／ 摂食嚥下リハビリテーション			事前：呼吸管理・栄養管理をまとめる。 事後：ミニレポートをユニパ⑤に提出する	
第 13 回	Ⅲ．在宅看護技術演習 コミュニケーション技術― 意思決定支援 （外部講師）			事前：テキスト内容の予習 事後：課題レポートをユニパ⑥に提出する	
第 14 回	アドバンスケアプランニング（外部講師）			事前：テキスト内容の予習 事後：11-14 回配布資料の内容をまとめる	
第 15 回	まとめ （冨安眞理）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	地域包括ケア、地域家族支援論の単位を取得していること。				
【関連科目】	在宅看護学演習、在宅看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。課題レポートはルーブリックを用いて評価する。課題レポート 30%（DP1-2、DP5：到達目標 1・3 に対応）、小テスト 20%（DP1-2：到達目標 2 に対応）、定期試験 50%（DP1-2：到達目標 1～3 に対応）				
【フィードバックの方法】	第 1 回目で、ミニレポート、課題レポート、小テストについて、フィードバックの方法を説明する。				

【テキスト】	地域・在宅看護の実践　第6版／河原加代子他／医学書院／ISBN978-4-260-04714-2				
【参考図書】	参考資料を配布する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　□C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊訪問看護や退院支援・多職種連携の経験を有する教員が、在宅看護における必要な基礎的知識と看護技術について講義を担当する。				
【その他】	学生は、講義・アクティブラーニングに主体的に取り組むことが求められる。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	在宅看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Home Healthcare Nursing	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊加納江理				
【担当教員】	＊加納江理、＊山本祐子、＊冨安眞理、＊予定教員				
【授業の概要】	地域包括ケアの進展、さらに共生社会形成への取り組み事例を通じて、病気や障害をもちながら生活している在宅療養者とその家族が住み慣れた地域で安心して過ごせるために必要となる看護活動の展開と、地域住民や多職種との連携について説明できる基礎的能力を養う。 授業は、講義、ゲストスピーカーによる活動事例の紹介、学生の主体的な少人数グループワーク（課題を明確にするための事前学習・PBL 学習・専門職への聞き取り）から構成する。				
【キーワード】	地域包括ケア、共生社会、在宅看護				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　■DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 日常生活圏域の特性をふまえた上で、在宅療養者とその家族を生活者として捉え、個々の課題やニーズに応じて地域住民や多職種と協働する仕組みについて説明できる。 2. 療養者とその家族の生活上の課題やニーズを理解し、住み慣れた地域で安心して生活するために必要となる支援計画を展開できる。 3. 地域包括ケアにおける看護職に期待される機能・役割について考察し、説明できる。				
【授業方法】	講義、問題解決型学習（PBL）、グループワーク				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	演習オリエンテーション（加納江理・山本祐子・予定教員）			事前：テキスト内容の予習 事後：自己学習計画の立案	
第 2 回	静岡市における地域共生社会形成への取り組み （外部講師）			事前：在宅看護に関連する社会制度とシステムの復習 事後：在宅看護に関連する社会制度とシステムについてまとめる	
第 3 回	問題解決型学習（PBL）1 回目 （加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：PBL の事前学習にとりくむ 事後：共有した知識をプログラムに反映する	
第 4 回	問題解決型学習（PBL）2 回目 （加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：PBL の事前学習にとりくむ 事後：共有した知識をプログラムに反映する	
第 5 回	問題解決型学習（PBL）3 回目 （加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：PBL の事前学習にとりくむ 事後：共有した知識をプログラムに反映する	
第 6 回	問題解決型学習（PBL）発表（加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：各自のまとめの内容をグループ内で共有し、発表資料を作成する 事後：他グループの発表の内容を自分のグループのまとめと比較検討する	
第 7 回	問題解決型学習（PBL）発表（加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：各自のまとめの内容をグループ内で共有し、発表資料を作成する 事後：他グループの発表の内容を自分のグループのまとめと比較検討する	
第 8 回	地域における多職種連携と在宅看護の展開−事前学習の共有（加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：各担当圏域の情報収集をし、自身のまとめを作成する 事後：グループワークの結果で、不足情報の収集と整理をする	
第 9 回	地域・在宅看護の展開−実践事例 （外部講師）			事前：プログラムに必要な知識を調べる 事後：共有した知識を発表課題に反映する	
第 10 回	地域・在宅看護の展開−実践事例 （外部講師）			事前：プログラムに必要な知識を調べる 事後：共有した知識を発表課題に反映する	
第 11 回	地域・在宅看護の展開−まとめ（加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：プログラムに必要な知識を調べる 事後：共有した知識を発表課題に反映する	
第 12 回	地域・在宅看護の展開−発表（加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員）			事前：各自のまとめの内容をグループ内で共有し、発表資料を作成する 事後：他グループの発表の内容を自分のグ	

		ループのまとめと比較検討する
第 13 回	地域・在宅看護の展開-発表(加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員)	事前:各自のまとめの内容をグループ内で共有し、発表資料を作成する 事後:他グループの発表の内容を自分のグループのまとめと比較検討する
第 14 回	多様な療養の場における療養生活支援(加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員)	事前:地域包括ケア病棟の役割を事前学習する 事後:静岡市内の地域包括ケア病棟の機能をまとめる
第 15 回	多様な療養の場における療養生活支援(加納江理・山本祐子・冨安眞理・予定教員)	事前:在宅看護学実習に向けて、在宅療養者と家族が利用できる支援策について、これまでの知識を基に整理する 事後:課題レポートの作成をする

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	在宅看護学概論を履修していること				
【関連科目】	在宅看護学概論、在宅看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。PBL 事前学習課題 30%(DP3:到達目標 2 に対応)、課題レポート 30%(DP2:到達目標 3 に対応)、発表成果 40%(DP2:到達目標 1 に対応)により、総合的に評価する。事前学習課題と課題レポート、発表成果の評価は、ルーブリック表を用いる。				
【フィードバックの方法】	第 1 回目で学習課題、課題レポート、事前学習について説明する。PBL および地域・在宅看護の展開-実践事例の演習において、教員は各グループの取り組み内容や整理状況を確認し、必要時助言をする。PBL および地域・在宅看護の展開-実践事例のグループ発表において教員は講評を行い、評価は発表資料にて行う。				
【テキスト】	静岡市健康長寿まちづくり計画、静岡市介護保険その他				
【参考図書】	参考資料を配布する				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊訪問看護師や医療機関における実務経験を有する教員が、在宅看護の展開や多職種連携について実践事例のポイントをおさえながら演習をすすめる。				
【その他】	学生は、グループワーク・フィールドワークに主体的に取り組むことが求められる。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	在宅看護学実習		【科目英語名】	Practice in home healthcare Nursing	
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	＊加納江理				
【担当教員】	＊加納江理、＊冨安眞理、＊山本祐子、＊予定教員				
【授業の概要】	本実習では、在宅療養者とその家族に対する在宅看護過程を展開し、看護支援を実践する能力を養う。また、在宅療養生活を支える関連機関・職種との連携、社会資源の活用に関して表現できる基礎的能力を養う。				
【キーワード】	在宅療養者、在宅看護過程、多職種連携				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　□DP3　■DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 在宅療養者とその家族の生活や健康課題、および、必要な支援に関してアセスメントした内容を的確に伝えることができる。 2. 在宅療養者とその家族の生活の質の向上をはかるために、必要なコミュニケーション技術・臨床判断能力の基礎を身につけ、看護援助を実践し、評価できる。 3. 在宅療養者とその家族を支える多職種連携や、活用可能な社会資源について表現できる。 4. 在宅療養者とその家族の心情を思いやり、価値観を尊重し、尊厳を重んじた行動ができる。				
【授業方法】	1. 訪問看護事業所における実習では、生活の場で提供される看護実践での訪問看護師の思考プロセスを理解する。療養者を1名選定して受け持ち、生活上の課題に応じた看護計画を立案し、看護支援を実践する。 2. 重症心身障害児・者施設における実習では、利用者とその家族に対する支援の実際を見学し、カンファレンスで学生の学びをディスカッションする。 3. 医療機関における実習では、在宅復帰を目指す療養者や、在宅復帰支援を担う多職種への聞き取り、および、ケア場面の見学から、多職種連携や社会資源の活用について理解を深め、カンファレンスで学生の学びを整理、表現する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. オリエンテーション 2. 訪問看護事業所における実習 1) 訪問看護師や、事業所に所属する多職種への同行訪問 2) 受け持ち療養者とその家族に、看護計画に沿った看護を実践する。 3) 訪問看護のまとめ　カンファレンスの開催 4) 臨床判断能力テスト(学内) 3.　重症心身障害児・者施設における実習 1) 通所サービスにおける療養生活支援への参加 2) 学生の体験の共有　カンファレンスの開催 4. 医療機関における実習 1) 在宅復帰を目指す療養者や家族への聞き取り 2) 療養者および家族を支える多職種への聞き取りやケア場面の見学 3) 在宅復帰支援のまとめ　カンファレンスの開催 5. 実習のまとめ・レポート作成			事前: ① 提示された学習課題に取り組む ② 主体的に実習計画を立案する。 事後: ① 在宅看護の思考過程を表現する(記録・カンファレンス・臨床判断テストデブリーフィング・日々の実習場面の振り返り・報告会)。 ② 実習終了後に課題レポートを作成する。 ③ 実習要項を参照し、実習記録を提出する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	在宅看護学概論、在宅看護学演習の単位を取得していること。				
【関連科目】	在宅看護学概論、在宅看護学演習				
【評価方法】	在宅看護学実習評価表に基づき、総合的に評価する(DP4　80%、DP5　20%:到達目標1～4に対応)。 原則として、実習日数の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。				
【フィードバックの方法】	学内実習ではグループでの振り返りの機会を作り、学生の理解度を教員が確認する。学生が学習した内容や整理状況を確認し、必要時に助言する。カンファレンスや報告会において、実習指導および教員から講評を行う。記録提出時に学生の自己評価を基に、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。				
【テキスト】	在宅看護学概論、在宅看護学演習で使用した参考書・資料など。				
【参考図書】	在宅看護学概論、在宅看護学演習で使用した参考書・資料など。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　□B　グループワーク　□C　プレゼンテーション ■D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある	＊病院および訪問看護ステーションでの看護師実務経験を持つ教員が担当し、在宅療養者とその家族への看				

教員による授業】	護支援や多職種連携、社会資源について、個々の学生が実践の場での体験を通じて理解できるよう、実習施設の指導者との連携のもと、実習教育を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Public Health Nursing	
【開講時期】	1 年後期/編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊予定教員				
【担当教員】	＊鈴木千智、＊伊藤純子、＊藤田登志美、＊予定教員				
【授業の概要】	地域に暮らす人々の QOL 向上を目指す公衆衛生看護の活動の特徴、基本となる理念、理論と方法の概要を学ぶ。また、公衆衛生看護活動の歴史的背景を踏まえて、地域を基盤とした保健師の活動のあり方への理解を深める。さらに、公衆衛生看護が展開される様々な場(行政、産業、学校等)における保健師活動について学習する。				
【キーワード】	公衆衛生看護の理念と基盤、公衆衛生看護の対象と場、公衆衛生看護活動				
【DP との関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 健康に関連する環境や生活の内容、資源と公衆衛生看護活動が関連していることを説明できる。 2. 公衆衛生看護活動の目的、対象、機能について説明できる。 3. さまざまな場における公衆衛生看護活動の概要について説明できる。 4. 公衆衛生行政の仕組み、保健所、保健センターについて説明できる。 5. 公衆衛生看護活動の歴史、現状をふまえ、これからの看護職(特に保健師)に求められる役割や課題について考えを説明できる。				
【授業方法】	講義を中心として行う。また、課題学習、グループ討議により学生間で主体的に学びあう形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	公衆衛生看護とは(定義、理念) (予定教員)			事前:テキストの 1 章を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 2 回	公衆衛生看護活動の基盤 (予定教員)			事前:配布資料を読んでおく。 事後:課題をまとめる。	
第 3 回	社会環境と生活の変化と健康への影響 (予定教員)			事前:テキストの 4 章を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 4 回	公衆衛生看護の対象(個人・家族・グループ・組織・地域) (予定教員)			事前:テキストの 2 章を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 5 回	公衆衛生看護活動の展開方法 (予定教員)			事前:テキストの 5 章を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 6 回	公衆衛生看護活動の歴史 (伊藤純子)			事前:テキストの 10 章を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 7 回	産業看護活動の概要 (予定教員)			事前:テキストの 3 章 B を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 8 回	学校看護活動の概要 (予定教員)			事前:テキストの 3 章Cを読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 9 回	国際看護活動の概要 (鈴木千智)			事前:テキストの 3 章Fを読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 10 回	公衆衛生行政の仕組み、機能と法規 (藤田登志美)			事前:テキストの 3 章Aを読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 11 回	保健所、保健センター、福祉部門における公衆衛生看護活動 (藤田登志美)			事前: テキストの 3 章 DE を読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第 12 回	静岡県における保健師活動 (予定教員)			事前: 地域保健における保健所の業務について確認しておく。 事後:講義から学んだ保健師活動についてまとめる。	
第 13 回	地域における健康危機管理 (予定教員)			事前:テキストの 9 章 AB を読んでおく。 事後:課題をまとめる。	
第 14 回	地域ケアシステムの構築を目指した公衆衛生看護の役割と課題 (予定教員)			事前:これまでに学んだ公衆衛生看護活動から保健師の役割をまとめておく。 事後:課題をまとめる。	
第 15 回	まとめ (予定教員)			事後:全講義の内容を整理しておく。	

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	公衆衛生学、社会福祉論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 筆記試験 80%(DP1-2:到達目標 1～4 に対応)、提出課題・グループ討議をまとめ、ルーブリックを用いて評価する 20%(DP1-2:到達目標 5 に対応)により、総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	講義中の質問には適宜対応する。リアクションペーパー等による課題および質問については、講義を担当した教員からユニパや次回の講義時にコメントする。				
【テキスト】	標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論／標美奈子他／医学書院／ISBN978-4-260-04707-4				
【参考図書】	1. 保健師業務要覧[最新版]／日本看護協会出版会／ISBN978-4-8180-2561-5 2. 国民衛生の動向[履修年時、最新版] その他、適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　□C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*保健師の実務経験のある教員が、公衆衛生看護について講義やグループワークをとおして基本的知識を教授する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ヘルスプロモーション		【科目英語名】	Health Promotion	
【開講時期】	2 年前期/編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊ 鈴木千智				
【担当教員】	＊ 鈴木千智、＊ 佐藤瑠美、*栗田真由美、*松田正己（非常勤）				
【授業の概要】	地域・国際的動向をふまえ、公衆衛生活動の基本である「ヘルスプロモーション」の歴史的背景や理念、その後の公共政策づくりへの影響などについて理解し、人々が健康に生活していくために看護が果たす責務と役割について、多角的に考察できるようになる。				
【キーワード】	ヘルスプロモーション、健康づくり、健康の社会的決定要因、健康行動、ヘルスリテラシー				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1.ヘルスプロモーションの理念と歴史的背景について、国際的動向を踏まえて説明できる。 2.社会環境の変化が健康に及ぼす影響を現代の健康課題と結び付けて説明できる。 3.健康に関する行動と生活習慣との関係について、具体的な活動事例から説明できる。 4.健康を維持/増進するために、看護が果たす責務と役割について、多角的に考察できる。				
【授業方法】	主として講義形式で行うが、課題学習、グループ討議を取り入れて、学生が主体的に学べる形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	ヘルスプロモーションの理念と歴史的背景 （鈴木千智）			事前：テキストのヘルスプロモーションの記載内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 2 回	健康の社会的決定要因とソーシャルキャピタル、社会的孤立（佐藤瑠美）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 3 回	住民のエンパワメントのための活動 （栗田真由美）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 4 回	生活習慣の変容を促す公衆衛生的アプローチの実際（鈴木千智）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 5 回	ヘルスリテラシーと ICT （鈴木千智）			事前：テキストのヘルスリテラシーの記載内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 6 回	健康づくり戦略としてのヘルスプロモーション（松田正己）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 7 回	ヘルスプロモーションの活動事例 （鈴木千智）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	公衆衛生看護学概論、保健医療システム論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 各講義時に提示する課題 70%（DP1-2：到達目標 1～3 に対応）、レポート課題 30%（DP5：到達目標 4 に対応）により、総合的に評価する。各講義時に提示する課題およびレポート課題は、それぞれルーブリックを用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	講義中に質問に応じる時間を設ける。講義後に提出する修得内容を記載した用紙の記載内容に応じ、講義を担当した教員から、ユニパや次の講義時間を通して、適宜、コメントを行う。				
【テキスト】	標準保健師講座 1 公衆衛生看護概論/標美奈子他/医学書院/978-4-260-04707-4 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術/中村裕美子他/医学書院/978-4-260-05002-9				

【参考図書】	適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*保健師の実務経験のある教員が、地域における健康づくり活動に関する基本的知識の講義をする。 *国内外で保健活動の実務経験のある非常勤講師が、国際的動向をふまえて活動の実際を講義する。				
【その他】	講義毎のリアクションペーパーの提出がなければ出席とは認めない。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	国際保健・災害看護論		【科目英語名】	Global health & Disaster Nursing	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊根岸まゆみ				
【担当教員】	＊根岸まゆみ、＊竹熊カツマタ麻子				
【授業の概要】	国際保健医療活動に必要な基礎的知識と保健医療分野における国際協力の仕組みを多角的観点から学び、国際社会における看護の役割について理解することができる。グローバルな問題の一つである災害について、平常時をも含めた国内外の災害看護活動の基礎的知識を理解し、災害時の看護学生・看護職の役割が判断できる。				
【キーワード】	国際保健、医療格差、災害看護				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 国際保健活動の基本となる概念と看護の役割を説明できる。 2. 保健医療分野における国際協力の仕組みを説明できる。 3. 災害サイクル別に応じた災害看護活動や管理機能について考察できる。 4. 被災者の特徴に応じた災害看護活動や管理機能について考察できる。				
【授業方法】	講義、COIL 授業、グループディスカッション・プレゼンテーション、課題学習を併用して実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授業ガイダンス・課題説明＆保健医療分野の開発理念の変遷（根岸まゆみ）			事前：教科書「第4章　国際看護学のAとB」を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第 2 回	国内外に共通する健康問題（竹熊カツマタ麻子）			事前：教科書「第4章の C、E」を通読 事後：課題レポート提出	
第 3 回	外国人保健医療と看護の現状と課題（根岸まゆみ）			事前：教科書「第4章の D」を通読 事後：課題レポート提出	
第 4 回	国際協力の場と国際保健活動の展開概要①：GO の事例（元 JICA 看護師、根岸まゆみ）			事前：教科書「第4章の F」を通読 事後：課題レポート提出	
第 5 回	国際協力の場と国際保健活動の展開概要②：NGO の事例（ゲスト講師：板東あけみ氏、根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読。自身の母子健康手帳の準備（授業に持参） 事後：課題レポート提出	
第 6 回	異文化と多様性を考慮した看護職としての国際活動とキャリア（竹熊カツマタ麻子）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第 7 回	国際保健・国際看護における倫理（根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読 事後：小テスト①	
第 8 回	グローバル化社会と災害、災害医療の基礎知識（根岸まゆみ）			事前：教科書「第1章　災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって」「第 2 章　災害看護学の A、B、C」を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第 9 回	災害時の臨床判断　（根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第 10 回	国際災害医療活動の実際（COIL 授業：ゲスト講師、根岸まゆみ）			事前：教科書「第3章　地震災害看護の展開の D」を通読 事後：英語による課題レポート提出	
第 11 回	災害サイクルに応じた災害看護活動：急性期・亜急性期（ゲスト講師、根岸まゆみ）			事前：教科書「第2章 D 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護の1」を通読 事後：課題レポート提出	
第 12 回	災害サイクルに応じた災害看護活動：慢性期・復興期・静穏期（根岸まゆみ）			事前：教科書「第2章 D の2、3」を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第 13 回	被災者特性に応じた災害看護活動：小児・母性・成人・老年（根岸まゆみ）			事前：教科書「第2章 E 被災者特性に応じた災害看護の展開の1、2、3、7」を通読 事後：小テスト②	
第 14 回	被災者特性に応じた災害看護活動：精神・慢性疾患・国際（根岸まゆみ）			事前：教科書「第2章 E 被災者特性に応じた災害看護の展開の4、5、6、8」と「第2章 F	

				災害とこころのケア」を通読 事後：小テスト③	
第 15 回	まとめ（根岸まゆみ）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	事前・事後学習を毎回行うことを条件として、授業に出席することができる。				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート 36%（DP2, DP5：到達目標 1～4 に対応）とグループワーク 34%（DP5：到達目標 3、4 に対応）の採点基準はルーブリックを用いる。小テスト 30%（DP2：到達目標 1、3、4 に対応）。				
【フィードバックの方法】	課題レポート・グループワーク・小テストへのフィードバックは授業時に口頭で行う。				
【テキスト】	系統看護学講座　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践③／浦田喜久子・小原真理子他／医学書院／ISBN 978-4-260-03570-5				
【参考図書】	Where there is no doctor: Village health care handbook／David Werner／Macmillan Education／ISBN-13: 978-0-333-51651-5 ほか講義の中で適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　□C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊国内外で看護師または薬剤師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義を実施する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	事前面談必要	【科目等履修生】	事前面談必要	【交換留学生】	事前面談必要

【科目名】	保健医療システム論		【科目英語名】	Health Care System	
【開講時期】	2年後期／編入4年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	＊佐藤瑠美				
【担当教員】	＊佐藤瑠美、＊予定教員、＊鈴木千智、				
【授業の概要】	広域的観点から社会の動向および地域の健康課題の解決や人々の健康保持増進のために階層化された保健医療システムの体系を理解し、予防や医療の効率化を可能にするためのサービスや資源の創出および管理運営するための基礎的知識を学ぶ。				
【キーワード】	政策、保健医療システム				
【DPとの関連】	□DP1-1　■DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 日本の保健医療システムの構成要素を理解ができる。 2. 日本の保健医療システムの特徴を説明できる。 3. 社会の情勢に応じた保健医療システムの課題を理解できる。 4. 保健医療システムの根底にある倫理原則を理解できる。 5. いのち・暮らし・尊厳を守るためのシステムを、看護職の視点で考察できる。				
【授業方法】	主として講義形式で行うが、課題学習、グループ討議、事例検討を取り入れて、学生が主体的に学べる形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス、課題の提示 保健医療システムの歴史的変遷と仕組み （佐藤瑠美）			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第2回	保健医療システムの変遷と課題(佐藤瑠美)			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第3回	制度や文化を超えた連携、社会的処方 （佐藤瑠美）			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第4回	保健医療システムとマイノリティ （鈴木千智）			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第5回	静岡県の医療システムの課題 （佐藤瑠美）			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第6回	保健医療システムのパラダイムシフト （予定教員）			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第7回	保健医療の効率化と社会的公正 （鈴木千智）			事前:配布資料の精読 事後:ミニレポート作成	
第8回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	ヘルスプロモーション、保健福祉行政論				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 試験60%(DP1-2:到達目標1～4に対応)、課題レポート40%(DP1～2:到達目標5に対応)により、総合的に評価する。 課題レポートはルーブリック評価に基づき評価する。				
【フィードバックの方法】	授業事後学習のなかで質問がある場合、各担当教員からユニパで返答する。				
【テキスト】	適宜、配布する				
【参考図書】	1.保健医療福祉行政論 第5版 (標準保健師講座)／藤内修二／医学書院／ 978-4260042222 2.これからの保健医療福祉行政論 第3版／星旦二、麻原きよみ編／日本看護協会出版会／978-4818023871 3. 国民衛生の動向(履修年時、最新版)　　その他、適宜、紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　□B グループワーク　□C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他(　　)　□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師・医師について実務経験を有する教員が、その経験を活かして、保健医療システムについての講義を行う。				
【その他】	特に、なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	コミュニティ・アセスメント論		【科目英語名】	Community Assessment	
【開講時期】	2 年後期/編入 4 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊伊藤純子				
【担当教員】	＊伊藤純子、＊鈴木千智、＊佐藤瑠美、＊栗田真由美、＊藤田登志美、*予定教員				
【授業の概要】	人々が生活している地域をアセスメントする方法を学び、地域の健康課題を明らかにし、その対策としての保健福祉サービスが展開されている生活環境を学ぶ。				
【キーワード】	コミュニティ、情報の解釈と分析、地域診断				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 地域診断の必要性を理解し、地域診断の方法について説明できる。 2. 保健統計等の既存資料から情報収集し、科学的及び論理的根拠に基づいて解釈分析し、説明できる。 3. 地区視診において生活者の視点に基づく情報収集を行い、モデルを用いて解釈し地区特性を説明できる。 4. 地域の健康課題と地域で展開されている保健・医療・福祉サービスと関連づけることができる。				
【授業方法】	講義に課題学習やグループワークを併用し、学生が主体的に学べる形式で実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	人々が生活する地域の理解－地域診断－（伊藤純子）			事前：テキスト該当部分の通読と課題回答 事後：講義資料とテキストの内容をまとめる	
第 2 回	地域診断のモデル（伊藤純子）			事前：テキスト該当部分の通読と課題回答 事後：講義資料とテキストの内容をまとめる	
第 3 回	保健統計等の既存資料からの情報収集（伊藤純子）			事前：テキスト該当部分の通読と課題回答 事後：講義資料とテキストの内容をまとめる	
第 4 回	保健統計等の既存資料からの情報のアセスメント（伊藤純子）			事前：テキスト該当部分の通読と課題回答 事後：講義資料とテキストの内容をまとめる	
第 5 回	地区視診による情報収集（伊藤純子）			事前：地区視診記録（計画）の作成 事後：地区視診記録①の作成	
第 6 回	グループワーク：情報の検討（伊藤純子、畑中純子、鈴木千智、佐藤瑠美、栗田真由美、藤田登志美）			事前：地区視診記録②の作成 事後：地区視診記録①、②の加筆修正	
第 7 回	地域保健福祉計画と保健・医療・福祉サービス（伊藤純子）			事前：テキスト該当部分の通読と課題回答 事後：小レポートの作成	
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	地域包括ケア、公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 事前事後課題、地区視診記録、及び小レポート 70%（DP:到達目標 1・2・4 に対応）、グループワーク 30%（DP:到達目標 3 に対応）により総合的に評価する。グループワークは科目ルーブリックを用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	課題のフィードバックはユニバーサルパスポートを通じて提示する。グループワークは科目ルーブリックを用いて作成された地区視診記録の目標到達度及び改善点の確認を行い、授業時間内に教員が解説を行う。				
【テキスト】	標準保健師講座 1　公衆衛生看護概論/標美奈子他著/医学書院/ ISBN:978-4-260-04707-4				
【参考図書】	国民衛生の動向（2022/2023）/一般社団法人厚生労働統計協会/ ISBN:なし 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動／中谷芳美他／医学書院／978-4-260-05303-7				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　□プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師実務経験を有する教員が地域の情報収集・アセスメントから健康課題の抽出までの地域診断の方法を講義、指導する。				
【その他】	原則として対面実施。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護活動論Ⅰ		【科目英語名】	Public Health Nursing Activities Ⅰ	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊佐藤瑠美				
【担当教員】	＊佐藤瑠美、＊鈴木千智、＊栗田真由美、＊藤田登志美、＊予定教員、＊吉田直樹(非常勤)				
【授業の概要】	地域に暮らす人々の顕在している健康課題のみならず、潜在している健康課題とその背景に焦点をあて、個人や家族のセルフケア能力を高め、地域の健康度を向上させるための公衆衛生看護活動のあり方や展開方法を具体的に学ぶ。				
【キーワード】	健康課題、公衆衛生看護活動				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 地域に暮らす住民の発達段階に応じた健康課題について説明できる。 2. 感染症、難病、精神、歯科に対する地域の健康課題と地域保健福祉活動における看護職の役割・機能について説明できる。 3. 母子(親子)、成人、高齢者に対する地域保健福祉活動における看護職の役割・機能について説明できる。 4. 地域に暮らす住民の健康支援に関連する法律を説明できる。				
【授業方法】	講義を主な形式とし、課題学習、調べ学習を取り入れ学生が主体的に学べる形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス、感染症保健福祉活動の概要:法制度の歴史的変遷、積極的疫学調査、予防接種 (佐藤瑠美)			事前:テキスト7章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第2回	感染症保健福祉活動の実際:結核・エイズと保健福祉活動 (佐藤瑠美)			事前:テキスト7章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第3回	難病を持つ人々への地域保健福祉活動①:難病とともに生きるということ (予定教員)			事前:テキスト6章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第4回	難病を持つ人々への地域保健福祉活動②:難病対策の動向、生活課題の特性 (予定教員)			事前:テキスト6章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第5回	母子(親子)地域保健福祉活動①: 母子保健のあゆみ 乳幼児の成長と発達と評価 (栗田真由美)			事前:テキスト1章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第6回	母子(親子)地域保健福祉活動②: 予防接種 妊娠・出産包括支援、乳幼児の事故 子どもの虐待と予防(栗田真由美)			事前:テキスト1章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第7回	高齢者地域保健福祉活動①:高齢者を取り巻く現状と課題、地域包括ケアシステム (栗田真由美)			事前:テキスト3章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第8回	高齢者地域保健福祉活動② 認知症対策、高齢者虐待、社会参加と地域づくり (栗田真由美)			事前:テキスト3章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第9回	歯科保健の動向と保健活動の実際 (吉田直樹)			事前:テキスト8章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第10回	成人期地域保健福祉活動①:理念、法制度の動向、健康課題の特性 (鈴木千智)			事前:テキスト2章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第11回	成人期地域保健福祉活動②:特定健康診査、特定保健指導、データヘルス (鈴木千智)			事前:テキスト2章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第12回	障がい児(者)保健福祉活動論:法制度の動向、各障がいの特性と当事者および家族への支援(藤田登志美)			事前:テキスト5章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第13回	精神保健福祉活動:理念、法制度の歴史的変遷と動向、生活支援と社会復帰 (藤田登志美)			事前:テキスト4章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第14回	精神保健福祉活動:社会病理を背景とする精神的問題と支援 (藤田登志美)			事前:テキスト4章を読む 事後:配布資料とテキストの内容をまとめる	
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	公衆衛生看護概論、ヘルスプロモーションの単位を取得していること。				
【関連科目】	公衆衛生看護概論、ヘルスプロモーション				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 筆記試験100%(DP1-2:到達目標1～4に対応)により、評価する。				

【フィードバックの方法】	授業事後学習のなかで質問がある場合は、各担当教員からユニパで返答する。				
【テキスト】	標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動／松田正己他／医学書院／978-4-260-03187-5				
【参考図書】	1. 国民衛生の動向(履修年時、最新版) 2. 国民の福祉と介護の動向(履修年時、最新版) そのほか、適宜、紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　□B　グループワーク　□C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師の実務経験を有する教員が、その経験を活かして講義を行う。 ＊歯科保健に関して専門的な知識を学ぶため、非常勤講師(歯科医または歯科衛生師を予定)が講義を行う。				
【その他】	・ 難病に関して、実際に病を抱えながら地域で暮らす人々の思いと社会参加の実際を学ぶため、当事者による講義を行う。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護学実習Ⅰ		【科目英語名】	Practice in Public Health Nursing Ⅰ	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	45時間
【科目責任者】	＊藤田登志美				
【担当教員】	＊鈴木千智、＊予定教員、＊佐藤瑠美、＊伊藤純子、＊栗田真由美、＊藤田登志美				
【授業の概要】	地域に暮らす人々が快適で安心できる保健衛生環境の確保と健康寿命延伸のために活動している保健所、市町村保健センター、事業場の機能やそこで働く保健師の役割について学ぶ。				
【キーワード】	地域　地区視診　保健所　保健センター　事業場　保健師				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1.地区踏査を通じて、地域で暮らす人々の生活や環境を知り、健康課題を抽出することができる。 2.住民の健康に関わる保健所の機能や役割を述べることができる。 3.住民の健康に関わる市町村保健センターの機能や役割、活動の概要を述べることができる。 4.事業場で行われている産業保健活動の意義と活動の概要について述べることができる。 5.各施設で働く保健師の役割について考察できる。				
【授業方法】	各実習場所において、オリエンテーション及び見学実習を行い、適宜グループ討議を加える。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1.事前学習　（担当教員全員） 2.地区踏査　（担当教員全員） 3.行政・保健所実習　（担当教員全員） 4.行政・市町村保健センター実習　（担当教員全員） 5.事業場実習　（担当教員全員） 6.実習のまとめ・学習成果の共有　（担当教員全員） 7.課題レポートの作成			事前: ・地区踏査を実施する地区（小・中学校区）を選定し、その範囲（町内会名）を特定する ・保健所設置の法的根拠、目的、業務内容を調べておく ・保健センター設置の法的根拠、目的、業務内容を調べておく ・労働基準法、労働安全衛生法、産業保健の3分野（管理）について、調べておく 事後: ・学内での発表、討議や教員の講評を踏まえて自己評価表を用いて自己の学びを振り返り、課題レポートを作成する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	「公衆衛生学」、「公衆衛生看護学概論」、「ヘルスプロモーション」の単位を取得していること。				
【関連科目】	コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰ				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の4/5以上の出席をもって単位認定の対象とし、補講は行わない。 実習記録60%(DP2:到達目標1・2・3・4に対応)、実習に臨む態度や行動等10%は、実習評価表に基づき評価する。課題レポート30%(DP5:到達目標5に対応)はルーブリックを用いて評価する。上記をもとに総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	学内での発表と討議の場での、講評による。 実習記録、レポートに、コメントを記入し返却する。				
【テキスト】	1. 標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論　標美奈子他著　医学書院　ISBN:978-4-260-04707-4 2. 標準保健師講座3　対象別公衆衛生看護活動　中谷芳美他著　医学書院　ISBN:978-4-260-05303-7				
【参考図書】	1.国民衛生の動向（履修年時、最新版） 2.保健師業務要覧（最新版）ISBN:978-4-8180-2607-0				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　□C　プレゼンテーション ■D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師業務経験を有する教員が、事前学習、臨地実習をとおして、行政保健師及び産業保健師の活動や役割について教授する。				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護活動論Ⅱ		【科目英語名】	Public Health Nursing Activities Ⅱ	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊予定教員				
【担当教員】	＊予定教員、＊非常勤講師1、非常勤講師2				
【授業の概要】	地域に暮らす人々の多様な生活の場(主に学校と産業)の特性に応じた公衆衛生看護活動のあり方や展開方法を学ぶ。そして、産業や学校の対象者の発達課題や健康課題に応じた公衆衛生看護活動において、関連する他機関や多職種との連携や協働することの意義を学び、その中での保健師の役割や機能を学習する。				
【キーワード】	学校保健、産業保健				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 公衆衛生看護活動が行われている場や目的、機能について説明できる。 2. 労働と健康の関連を理解し、労働衛生の実態、産業看護活動の実際や保健師の役割について説明できる。 3. 学童期の子どもの健康の実態、学校看護活動の実際や養護教諭の役割について説明できる。				
【授業方法】	講義を中心として行う。また、グループ討議により学生が主体的に学び合う形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	学校保健の基本　(非常勤講師1) 保健教育、保健管理、組織活動の概要と養護教諭の職務			事前:テキストの9章Aを読んでおく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第2回	学校における保健管理(1)(非常勤講師1) 健康観察、保健調査、健康診断等			事前:テキストの9章Bを読んでおく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第3回	学校における保健管理(2)(非常勤講師1) 健康相談、健康相談活動、救急処置			事前:テキストの9章Bを読んでおく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第4回	学校における保健管理(3)(非常勤講師2) 危機管理、学校安全、学校感染症、学校環境衛生			事前:テキストの9章Bを読んでおく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第5回	学校における保健教育(非常勤講師2) 集団に対する保健教育と個別指導			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第6回	学校における保健組織活動(非常勤講師2) 学校保健委員会、多職種、他機関連携等			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第7回	産業保健・産業看護の理念と歴史(予定教員)			事前:テキストの10章Aを読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第8回	企業、組織と労働生活の理解および労働者の理解 (予定教員)			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第9回	わが国における産業保健・産業看護の現状と課題(予定教員)			事前:テキストの10章Bを読んでおく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第10回	労働安全衛生関連法規と労働安全衛生管理体制(予定教員)			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第11回	職業性疾病とその予防策(予定教員)			事前:看護師の職業性疾病について調べておく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第12回	作業関連疾患とその予防策(予定教員)			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義内容とテキストをまとめる。	
第13回	産業保健活動の展開と産業保健師の役割(予定教員)			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第14回	産業看護活動の実際(予定教員)			事前:提示する資料を確認しておく。 事後:講義中に示した課題をまとめる。	
第15回	まとめ(予定教員)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰおよび公衆衛生看護学実習Ⅰの単位を取得していること。保健師国家試験受験資格取得の希望者は履修しなければならない。				
【関連科目】	公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護管理論Ⅰ、公衆衛生看護方法論				

【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 筆記試験 80%(DP1～2:到達目標 1～3 に対応)、提出課題およびグループ討議まとめ 20%(DP2:到達目標 2～3 に対応)はルーブリックを用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	講義中の質問には適宜対応する。リアクションペーパーや提出課題については、講義を担当した教員から、ユニパや次回の講義時にコメントする。				
【テキスト】	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動／中谷芳美他／医学書院 (2 年次に使用したもの)				
【参考図書】	適宜紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊学校保健または産業保健の経験のある教員が、講義あるいはグループワークをとおして学校保健または産業保健の基本的知識を教授する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護管理論Ⅰ		【科目英語名】	Public Health Nursing Administration Ⅰ	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	＊ 鈴木千智				
【担当教員】	＊ 鈴木千智、＊ 予定教員、＊ 藤田登志美				
【授業の概要】	公衆衛生看護を担う保健師の活動は、地域や所属組織の特性を活かし、そこで生活する人々の権利保障、コミュニティの健康水準の向上に向けた取り組みが求められる。そのために必要となる公衆衛生看護管理機能についての基本的な知識を修得する。				
【キーワード】	公衆衛生看護管理機能、事業化、PDCAサイクル				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 公衆衛生看護管理の目的とその特徴を説明できる。 2. 公衆衛生看護管理の基本的な機能について、説明できる。 3. 個別支援から事業化、施策化への展開について、そのプロセスを説明できる。 4. 実現可能性や優先順位をふまえ、事業評価する視点を説明できる。				
【授業方法】	主として講義形式で行うが、グループ討議を取り入れて、学生が主体的に学べる形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	公衆衛生看護管理の目的と基盤となる理論(予定教員)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第2回	公衆衛生看護管理の倫理・情報の管理 (鈴木千智)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第3回	行政における公衆衛生看護管理活動:地区担当と地区管理(鈴木千智)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第4回	事業管理と業務・予算の管理 (藤田登志美)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第5回	人材育成と人事管理(予定教員)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第6回	公衆衛生看護管理におけるPDCAサイクルと評価(予定教員)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第7回	個人・家族への支援から事業・施策へ (鈴木千智)			事前:提示する資料内容を確認しておく 事後:講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第8回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	「公衆衛生看護学概論」、「ヘルスプロモーション」「保健医療システム論」「コミュニティ・アセスメント論」「公衆衛生看護活動論Ⅰ」および「公衆衛生看護学実習Ⅰ」の単位を取得していること。保健師国家試験受験資格の取得希望があり、公衆衛生看護学実習Ⅱ及びⅢを選択するものは履修しなければならない。				
【関連科目】	公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護活動論Ⅱ				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 筆記試験80%(DP1-2:到達目標1・2に対応)、学習課題20%(DP2:到達目標3・4に対応)により、総合的に評価する。学習課題は、ルーブリックを用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	講義中に質問に応じる時間を設ける。講義後に提出する修得内容を記載した用紙の記載内容に応じ、講義を担当した教員から、ユニパや次の講義時間を通して、適宜、コメントを行う。講義の最終回で全体に対するフィードバックを行う。				
【テキスト】	標準保健師講座1 公衆衛生看護概論 /標美奈子他/医学書院/978-4-260-04707-4(1年次に使用)				

【参考図書】	適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*保健師の実務経験のある教員が、公衆衛生における看護管理について講義やグループワークをとおして基本的知識を教授する。				
【その他】	講義毎のリアクションペーパーの提出がなければ出席とは認めない。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護管理論Ⅱ		【科目英語名】	Public Health Nursing Administration Ⅱ	
【開講時期】	4年後期	【必修区分】	選択	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	＊ 鈴木千智				
【担当教員】	＊ 鈴木千智、＊ 予定教員、*佐藤瑠美、*伊藤純子、*栗田真由美、*藤田登志美、榊原直喜				
【授業の概要】	保健師が行う健康危機管理の考え方を理解し、災害時のみならず平常時からの健康危機管理における保健師の責務と役割をふまえ、健康危機の増大を防止する対応を学習する。また、様々な健康レベルにある「ひと」と地域社会の健康課題に対し、住民とともに協働して取り組むことができるように、保健医療福祉の地域づくりを推進する行政のしくみと施策化のプロセスについて理解し、地域保健活動を評価し、管理する方法を学ぶ。				
【キーワード】	地域づくり、施策化、住民との協働、健康危機管理				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 保健医療福祉活動を推進する行政のしくみについて説明できる。 2. 保健師が行う地域づくりと施策化のプロセスにおいて、保健師の責務と役割を考察できる。 3. 健康危機管理における保健師の視点を説明できる。				
【授業方法】	主として講義形式で行うが、課題学習、グループ討議、発表を取り入れ、学生が主体的に学べる形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	健康危機管理とは：感染症集団発生における健康危機管理 （鈴木千智）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第2回	災害時における健康危機管理 （藤田登志美）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第3回	個別支援における健康危機管理：精神、虐待、DV等 （栗田真由美）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第4回	公衆衛生看護の基盤となる集団の捉え方:疫学、保健統計 （榊原直喜）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第5回	集団健診におけるアセスメントの視点と事後管理 （佐藤瑠美）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第6回	保健福祉行政における地区管理：グループ支援とネットワークづくり （伊藤純子）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第7回	保健福祉行政における主な施策と健康課題の捉え方と地域づくりの基本理念、保健師が行う施策化のプロセスと評価 （予定教員）			事前：提示する資料内容を確認しておく 事後：講義時に提示する学習課題について配布する所定の用紙にまとめる	
第8回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	保健師国家試験受験資格の取得希望があり、「公衆衛生看護管理論Ⅰ」の単位を取得していること。 「公衆衛生看護学実習Ⅱ」「公衆衛生看護学実習Ⅲ」を履修していること。				
【関連科目】	公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習、公衆衛生看護学実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅲ				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 評価は、各講義内で行う小テスト70%（DP1-2：到達目標1・2・3に対応）または学習課題30%（DP2：到達目標1・2・3に対応）にて総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	講義中に質問に応じる時間を設ける。講義後に提出する修得内容を記載した用紙の記載内容に応じ、講義を担当した教員から、ユニパや次の講義時間を通して、適宜、コメントを行う。提出された課題には担当した教員がコメントを記入して返却する。				
【テキスト】	標準保健師講座1 公衆衛生看護概論 /標美奈子他/医学書院/978-4-260-04707-4				

	標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術/中村裕美子他/医学書院/978-4-260-05002-9 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 /中谷芳美他/医学書院/978-4-260-05303-7				
【参考図書】	適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*保健師の実務経験のある教員が、公衆衛生における看護管理について事例を交えた講義や課題提示により、基本的知識を教授する。				
【その他】	なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護方法論		【科目英語名】	Public Health Nursing Methodology	
【開講時期】	3 年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊予定教員				
【担当教員】	＊鈴木千智、＊佐藤瑠美、＊藤田登志美、＊予定教員				
【授業の概要】	行政保健師が受持ち地区をもち活動展開する際に最も重要となる地域診断からの地域・集団への支援方法を学習する。また、公衆衛生看護活動において必要とされる、健康相談・保健指導、家庭訪問、健康教育という支援技術について、理論と方法をグループでの演習や個別のワークを通して学習する。				
【キーワード】	保健指導、健康教育、家庭訪問、ケースマネジメント、グループ・組織活動、事業化・施策化				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　■DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 個人・家族への支援方法である、健康相談、保健指導、家庭訪問の理論と展開するためのアセスメント方法や課題を明確化し、それらを活用してアセスメントできる。 2. 地域の健康課題を解決するための計画立案・評価方法を理解し、パートナーとしてのコミュニティを支援する方法を説明できる。 3. 健康教育の企画書の作成をとおして、地域の特定集団への QOL の向上及び健康課題に対する解決策を表現できる。				
【授業方法】	行政保健師が行う地区活動の基盤となる理論の学習と共に、地域の健康課題解決に向けた計画立案、事業化・施策化の方法ならびに、住民を動かし地域組織活動を促進させる技術を学ぶ。また、個人・家族への支援の基本となる健康相談、保健指導、家庭訪問の技術を活用して、ケースマネジメントの個別ワーク・グループワークを行う。さらに、効果的な健康教育をするため、対象集団の分析や展開方法と評価について、グループワークを中心に学ぶ。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	地域に暮らす個人、家族、グループ・組織の理解と支援技法 （予定教員）			事前：テキスト 2 章を読んでおく。 事後：講義内容とテキストをまとめておく。	
第 2 回	健康相談と保健指導の理論 （鈴木千智）			事前：テキスト 3 章 AB を読んでおく。 事後：講義内容とテキストをまとめておく。	
第 3 回	健康相談と保健指導の展開 （鈴木千智）			事前：テキスト 4 章を読んでおく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる。	
第 4 回	家庭訪問における保健指導 （藤田登志美）			事前：テキスト 5 章を読んでおく。 事後：講義内容とテキストをまとめておく。	
第 5 回	家庭訪問における支援の実際 （藤田登志美）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる。	
第 6 回	健康相談、保健指導、家庭訪問における相談技法 （藤田登志美）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる。	
第 7 回	個人・家族への支援：ケースマネジメント（佐藤瑠美）			事前: テキスト 4 章 C を読んでおく。 事後:講義資料とテキストの内容をまとめる。	
第 8 回	個人・家族への支援：情報収集・アセスメント・計画・評価 （佐藤瑠美）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる。	
第 9 回	地域の健康課題解決のための計画・評価、事業化・施策化 （鈴木千智）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：講義内容とテキストをまとめておく。	
第 10 回	地域組織活動におけるグループ・組織活動への支援 （佐藤瑠美）			事前：テキスト 7 章を読んでおく。 事後：講義内容とテキストをまとめておく。	
第 11 回	健康教育の対象把握と方法 （予定教員）			事前：テキスト 6 章を読んでおく。 事後：講義内容とテキストをまとめておく。	
第 12 回	健康教育における教育技術、教育媒体 （予定教員）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる。	
第 13 回	健康教育の展開過程 （予定教員）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる。	
第 14 回	健康教育の実践と評価 （予定教員）			事前：提示する資料を確認しておく。 事後：課題を指定の記録用紙にまとめる	
第 15 回	まとめ （予定教員）				

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰおよび公衆衛生看護学実習Ⅰの単位を取得していること。保健師国家試験受験資格取得の希望者は履修しなければならない。				
【関連科目】	公衆衛生看護学概論、ヘルスプロモーション、保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護管理論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 学習課題 70%(DP2:到達目標 1～3 に対応)、グループワーク 30%(DP2 と DP4:到達目標 2 に対応)により総合的に評価する。グループワークの課題はルーブリックを用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	講義中の質問には適宜対応する。提出課題については講義を担当した教員から、ユニバーサルパスポートまたは次回の講義時にコメントする。				
【テキスト】	1. 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術／中村裕美子他／医学書院 (2 年次に使用したもの) 2. 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論／標美奈子他／医学書院 (1 年次に使用したもの) 3. 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動／中谷芳美他／医学書院 (2 年次に使用したもの)				
【参考図書】	1. 保健師業務要覧 (最新版)／井伊久美子他／日本看護協会出版会／ISBN978-4-8180-2561-5 2. 国民衛生の動向(履修年時、最新版) その他、適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師としての豊富な経験のある教員が、講義やグループワークをとおして基本的知識と技術を教授する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Public Health Nursing	
【開講時期】	3 年後期	【必修区分】	選択	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	栗田真由美				
【担当教員】	栗田真由美、鈴木千智、佐藤瑠美、伊藤純子、藤田登志美、予定教員				
【授業の概要】	本授業は、地域全体の健康ニーズの把握、地区診断を通して、地域の健康課題を明確化し、地域の健康課題に対する事業化のプロセスを学習する。				
【キーワード】	地域診断、事業化・評価				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 ■DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 地域の情報から地域診断に必要な情報の整理とアセスメントを行い、地域の健康課題を明らかにできる。 2. 地域の健康課題に関する情報やインフォーマル、フォーマルの社会資源を考慮し、健康課題に対する支援策の立案ができる。 3. 地域の健康課題の明確化から支援策を立案する一連のプロセスを通じて、保健師の役割について考える。				
【授業方法】	課題学習、個別演習、グループ演習で実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	授業ガイダンス(栗田真由美)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 2 回	コミュニティアズパートナーモデル(地域のコア)に基づいた情報収集 (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 3 回	コミュニティアズパートナーモデル(サブシステム)に基づいた情報収集 (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 4 回	保健福祉活動に関わる援助技術(健康ニーズのアセスメント) におけるグループ発表(担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 5 回	保健福祉活動に関わる援助技術(健康課題の明確化) の確認(担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 6 回	構造図の作成を通して地域の健康課題の抽出 (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 7 回	関連図の作成から地域の健康課題の明確化 (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 8 回	グループ発表 (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 9 回	健康課題に対する必要な事業計画の立案(担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 10 回	健康課題に対する必要な事業計画の立案(担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 11 回	グループ発表(ピア・レスポンス) (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 12 回	事業企画書の見直しと実施に向けた今後の課題整理(担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 13 回	保健福祉活動に関わる援助技術(地域の健康増進能力を高める支援計画の立案) (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 14 回	グループ発表(ピア・レスポンス) (担当者全員)			事前:提示された学習課題の実施 事後:学習内容の振り返りとまとめ	
第 15 回	まとめ 「保健医療福祉の課題に対応する保健師の役割について」(担当者全員)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	「公衆衛生看護活動論Ⅱ」、「公衆衛生管理論Ⅰ」および「公衆衛生看護方法論」の単位を取得していること				
【関連科目】	「公衆衛生看護活動論Ⅱ」、「公衆衛生管理論Ⅰ」および「公衆衛生看護方法論」、「コミュニティアセスメント論」				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 演習ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション 65%(DP3.DP4:到達目標1～3 に対応)、課題学習内容 35% (DP4:到達目標1～3 に対応)についてルーブリックを用いて評価する。				

【フィードバックの方法】	授業時間内で質問がある場合や演習のまとめの際に、各担当教員から適宜返答及びコメントを行う。				
【テキスト】	標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論/ 標美奈子他著/ 医学書院/ 978-4-260-04707-4 標準保健師講座2　公衆衛生看護技術/ 中村裕美子著/ 医学書院/ 978-4-260-03870-6				
【参考図書】	地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第 2 版/佐伯和子/ 医歯薬出版/ 978-4-263-23710-6				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション □D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師の実務経験を有する教員が、その経験を活かして演習を行う。				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護学実習Ⅱ		【科目英語名】	Practice in Public Health Nursing Ⅱ	
【開講時期】	4年前期	【必修区分】	選択必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	＊伊藤純子				
【担当教員】	＊伊藤純子、＊鈴木千智、＊佐藤瑠美、＊栗田真由美、＊藤田登志美、＊予定教員				
【授業の概要】	1. 県健康福祉センター(保健所)と政令市保健所において、管轄する市町の健康課題や保健所の役割、業務について見学実習をする。 2. 市町の保健センターにおいて、保健師が担当する地区に住む住民の健康の実態を把握し、関係する情報を整理、分析することで健康課題を抽出する。また、健康課題に対して実施されている事業を把握し、検討する。				
【キーワード】	地域診断、予防、保健福祉活動、協働				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　■DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 地域で展開される保健福祉活動や各種事業について的確に表現できる。 2. 地域住民の生活や健康を多角的にとらえ、収集した情報を統合した上で健康課題を抽出できる。 3. 行政で働く保健師の役割について理解し、他機関と協働して実践する地域診断ができる。				
【授業方法】	各実習場において、オリエンテーション、見学実習を行う。また、保健師が担当する地区について、グループで資料から健康状態の分析を行い、地域に出向き、地区視診や住民へのインタビューを行い、地区の健康課題について分析を行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. 事前学習（担当教員全員） 2. 行政・保健所実習（担当教員全員） 3. 行政・市町村保健センター実習（担当教員全員） 4. 地区診断（資料分析、地区視診、住民へのインタビュー等）（担当教員全員） 5. 関係機関の見学、実習（担当教員全員） 6. 実習のまとめ・学習成果を共有し議論することで学びを深める。(担当教員全員）			事前：実習地域の概要について、官公庁公開情報、地図により概要をまとめる。参加する保健事業と聞き取り調査対象者の役割について調べる。 事後：学内での発表・討議を踏まえてレポートを作成する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護方法論および公衆衛生看護管理論Ⅰの単位を取得していること。				
【関連科目】	公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅲ				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の4/5以上の出席をもって単位認定の対象とし、補講は行わない。 実習記録60%(DP3、DP4：到達目標1～3に対応）、実習に臨む態度や行動等10%(DP4：到達目標3に対応）は、実習評価表に基づき評価する。課題レポート30%(DP3、DP4：到達目標1.3に対応)は、ルーブリックを用いて評価する。上記を基に総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	事前学習課題について、学内日に教員から助言を行う。実習内発表について、実習指導者及び教員から講評として指導、助言を行う。				
【テキスト】	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論／標美奈子／医学書院／978-4-260-04707-4 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術／中村裕美子／医学書院／978-4-260-03870-6 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動／中谷芳美他／医学書院／978-4-260-05303-7				
【参考図書】	1. 新版　保健師業務要覧／井伊久美子他編／日本看護協会出版会／978-4-8180-2216-4 2. 国民衛生の動向(履修年時、最新版)				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション ■D　実習／フィールドワーク　□E　その他(　　)　□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師業務経験を有する教員が、その経験を活かして行政保健師の活動や役割について、事前学習、臨地実習をとおして教授する。				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	公衆衛生看護学実習Ⅲ		【科目英語名】	Practice in Public Health Nursing Ⅲ	
【開講時期】	4 年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊佐藤瑠美				
【担当教員】	＊佐藤瑠美、＊鈴木千智、＊予定教員、＊伊藤純子、＊栗田真由美、＊藤田登志美				
【授業の概要】	コミュニティ(行政/産業/学校/へき地)の健康増進と生活の質(QOL)の向上のため、個人・家族のアセスメントと対象となるコミュニティ(行政/産業/学校/へき地)の分析に基づき、そこに所属する人々・関係者・関係機関等と協働して、健康課題の解決・改善に向けて、人々のもつ力を引き出し、健康増進能力を高めるよう支援する公衆衛生看護活動の実践を見学、実践する。そこから、それぞれの場で公衆衛生看護職が果たす責務と役割を理解し、公衆衛生看護職として、必要な基礎的知識・対人支援/社会支援技術・倫理的態度を学修する。				
【キーワード】	健康増進、健康教育、個別支援、協働、エンパワメント				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　■DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 対象となる個人・家族、集団・組織、地域の特性や健康状態をアセスメントすることができる。 2. 地域診断の方法を活用し、対象(個人・家族、集団・組織、地域)の健康課題を捉え、その解決・改善に向けて、健康を増進する力を高めるような支援計画を立案することができる。 3. 個人や集団の健康課題に応じた支援(家庭訪問・健康教育・健康相談等)を実践、評価することができる。 4. 対象となる人々(地域住民、労働者、児童・生徒等)の健康生活を支援するために行政/産業保健師や養護教諭の責務と役割について考察することができる。 5. 公衆衛生看護の専門職として、人々の生活や価値観を尊重し、地域や組織の文化に配慮した態度で看護実践を展開することができる。				
【授業方法】	本実習では、「行政」を全員が履修し、「保健所」「産業」「学校」「へき地」の4コースを設ける。行政は全員が履修するが、「保健所」、「産業」、「学校」ならびに「へき地」は、いずれか 1 コースのみを選択して履修する。原則として、学生の希望を尊重する。 1.「行政」は、市町村保健センターを実習拠点とし、公衆衛生看護学実習Ⅱと連動させ、同じ実習地域で展開されている地域保健活動の見学、実践を行う。自らの健康増進能力を高めるよう支援するとともに、自主的に社会資源を活用できるよう支援する方法や PDCA サイクルに基づき活動を評価して、関連する法律や計画における位置づけを理解しながら、継続した活動へとつなげていく一連の過程を学習する。 2-1.「保健所」では、保健所における広域的かつ専門的な公衆衛生看護活動と保健師の役割について学ぶ。 2-2.「産業」では、事業場を実習拠点とし、施設の特長と共に健康課題を把握する。また、産業保健活動の実際を理解し、そこで活動する産業保健師の役割や関連する他機関や他職種との連携等について学習する。 2-3.「学校」では、小中学校と特別支援学校を実習拠点として、児童生徒の特長と健康課題を把握し、学校保健活動の実際を理解し、そこで活動する養護教諭や看護職の役割について学習する。 2-4.「へき地」では、地区特性と保健医療福祉の課題を把握し、へき地における公衆衛生看護活動の実際を理解し、そこで活動する保健師の役割について学ぶ。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	実習指導は、担当教員全員で行う 1. 事前学習(個別学習とグループ学習)を行う 2. 各施設でのオリエンテーションにより実習施設の概要を把握する 3. 実習施設で行われている事業、活動を把握する 4. 実習で参加する活動の法的根拠、目的、方法、活動の実際と課題を把握する 5. 家庭訪問、健康相談、健康教育等を実践する 6. カンファレンスを行う 7. まとめと実習成果の発表、討議を行う 8. 課題レポートを作成する			事前: ・選択した実習場所に応じ、事前学習ノートに記載されている内容を調べておく。 ・実施する健康教育の対象集団の特徴について調べておく 事後: 学内での発表・討議、教員からの講評をふまえて、実習評価表を用いて自己の学びを振り返り、課題レポートをまとめる	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	保健師国家試験受験資格の取得希望があり、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修していること				
【関連科目】	公衆衛生看護学実習Ⅱ				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 4/5 以上の出席をもって単位認定の対象とし、補講は行わない。 実習記録 60%(DP3:到達目標 1・2・3 に対応)、実習に臨む態度や行動等 10%(DP3:到達目標 5 に対応)は、実習評価表に基づき評価する。レポート課題 30%(DP4:到達目標 4 に対応)は、ルーブリックを用いて評価				

	する。上記を基に総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	事前学習課題について学内日に担当教員から助言を行う 臨地実習中は、実習記録へのコメントや毎日実施するミニカンファレンスを通して、実習指導者とともに学生の学びや疑問について助言を行う 学内での実習成果発表時には、公衆衛生看護学領域の教員全員からの講評と助言を行う。実習記録と課題レポートはコメント記入して返却する				
【テキスト】	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論／標美奈子他／医学書院／978-4-260-04707-4 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術／中村裕美子他／医学書院／978-4-260-05002-9 標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動／中谷芳美他／医学書院／978-4-260-05303-7				
【参考図書】	公衆衛生看護関連の科目で使用したすべてのテキストや配布資料 そのほか、実習施設に関するものは実習施設ごとに適宜、紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A　ディスカッション／ディベート　■B　グループワーク　■C　プレゼンテーション ■D　実習／フィールドワーク　□E　その他（　　）□F　該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師業務経験を有する教員が、その経験を活かして各活動の場における公衆衛生看護活動やその役割について、事前学習、臨地実習をとおして教授する				
【その他】	・へき地を履修した場合、宿泊を伴う				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	多職種連携実習		【科目英語名】	Practice in Interprofessional Work	
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊看護系教員				
【担当教員】	＊看護系教員				
【授業の概要】	地域医療を支える専門職者間の連携・協働の実際に参画し、患者を中心とした総合的な医療・ケアの実際を学ぶ。また、地域医療を支える看護専門職者に求められる機能と役割について考察する。				
【キーワード】	多職種連携、チーム医療、実習				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　□DP3　■DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 多職種連携の概念及び地域医療の現状と課題を理解できる。 2. 地域医療を支える医療機関の機能や役割を理解できる。 3. 複数の領域の専門職者によるケアの質を改善するための連携や協働について主体的に学ぶことができる。 4. 多職種連携実践上の倫理である患者とその家族の意思の尊重について述べることができる。 5. 地域医療を支える看護専門職者に求められる機能と役割について述べることができる。				
【授業方法】	3～6 名でチームを形成し、臨地における専門職者による講義、多職種連携への参画（ケースカンファレンス、患者・家族からの聞き取り、連携・協働場面の見学）、退院支援に関する事例検討に主体的に取り組む。さらに、専門職者間の連携・協働の学び、地域医療を支える看護専門職者に求められる機能と役割について考えたことについてプレゼンテーションを行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1日目 午前：全体オリエンテーション 午後：病院オリエンテーション 2日目 午前：病院長・看護部長より病院概要説明 午後：医療連携室・看護師による講義・見学 3～4日目 多職種連携への参画（実習指導者とのカンファレンスを含む） 5日目 午前：学びのまとめ・発表準備 午後：発表会			実習開始前 ・「多職種連携」「チーム医療」に関する事前学習をレポートする。 実習期間中 ・実習での学びや考えたことを実習記録に整理する。 実習終了後 ・専門職者の連携・協働の実際と、看護専門職者に求められる機能・役割について考察し、レポートする。 ・実習での学びを自己評価する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	2年次までの必修科目の単位を習得していること				
【関連科目】	専門領域の実習科目				
【評価方法】	原則として全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。 多職種連携実習評価表に基づいて評価する。 実習記録20%（DP4：到達目標1・2に対応）、参画における学習意欲20%（DP4：到達目標3に対応）、 発表内容30%（DP4・5：到達目標4・5に対応）、レポート内容30%（DP4・5：到達目標4・5に対応）とする。				
【フィードバックの方法】	担当教員がその都度フィードバックを行う				
【テキスト】	特に指定しない				
【参考図書】	担当教員より適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）　□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師として実務経験がある教員が指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護研究		【科目英語名】	Introduction to Nursing Research	
【開講時期】	3 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊操華子				
【担当教員】	＊操華子、＊小池潤、＊榊原直喜、＊予定教員				
【授業の概要】	看護研究のプロセス、量的ならびに質的研究方法の基礎を学び、その知識を活用して自らの研究課題（リサーチ・クエスチョン）を明確にし、自身の研究課題への回答を得るために必要な研究方法について学習する。				
【キーワード】	研究デザイン、リサーチ・クエスチョン、量的研究、質的研究				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　□DP5　■DP6				
【到達目標】	1. 看護研究のプロセスを説明できる。 2. リサーチ・クエスチョンの種類に応じた研究デザインを選択することができる。 3. 量的研究のデザインの種類と具体的なデータ収集・分析方法を説明できる。 4. 質的研究のデザインの種類と具体的なデータ収集・分析方法を説明できる。 5. 研究計画書の各構成要素（倫理的配慮を含む）について記述することができる。				
【授業方法】	対面講義を中心とし、授業内での学生同士のディスカッションを通し主体的に学びあう形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	看護研究の目的・意義、研究プロセス（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 2 回	研究課題（リサーチ・クエスチョン）の種類と研究デザイン（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 3 回	研究課題（リサーチ・クエスチョン）の絞り込み（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 4 回	研究計画書の構成要素（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 5 回	研究倫理（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 6 回	量的研究：概要・代表的なデザイン（予定教員）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 7 回	量的研究：仮説検証型研究・実験研究（予定教員）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 8 回	量的研究：調査研究（小池潤）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 9 回	量的研究：質問表の作成（小池潤）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 10 回	量的研究：データの分析とまとめ方（榊原直喜）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 11 回	質的研究：概要 ・代表的なデザイン（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 12 回	質的研究：代表的なデータ収集法　面接法（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 13 回	質的研究：データの分析方法（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 14 回	文献研究（操華子）			事前　テキスト該当ページの精読 事後　学習内容を復習	
第 15 回	まとめ			事前　第 1 回～14 回の授業資料の復習 事後　課題レポートの提出	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	保健医療統計学、疫学				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席確認を単位認定の前提とする。課題レポート 65%（DP2：到達目標 1～5 に対応）、各回の確認テスト 35%（DP6：到達目標 1～5 に対応）から総合的に評価する。授業時間内に確認テストを実施する。実施方法は各コマ担当教員の指示に従う。確認テストの受験をもって出席とみなし、未受験の者はユ				

	ニパ上出席であっても欠席扱いとする。				
【フィードバックの方法】	確認テストの結果をふまえ、理解が不十分な点については次回の講義開始時にフィードバックする。				
【テキスト】	基礎看護学④ 看護研究／前田ひとみ編／MC メディカ出版／978-4-8404-7839-7 C3347				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊保健師・看護師・助産師の実務経験を有し、かつ看護師の現任教育・継続教育に現在携わっている教員が、自身の経験も紹介しながら、講義を行い、学生のディスカッションに参加する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	卒業研究 A		【科目英語名】	Graduation Study A	
【開講時期】	3 年通年／編入 3 年通年	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	＊井上 健一郎				
【担当教員】	＊看護学部教員				
【授業の概要】	学生各自が、これまでの臨床経験並びに学習の中から研究課題となる「問い」を見出し、その課題に関連深い専門分野の教員の指導の下に研究過程を経験・習得し、論文作成の基礎を学習する。研究過程を理解することで、看護学への関心を高め、研究に必要な専門的知識やスキルを修得する。				
【キーワード】	看護学の発展、科学的探究				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 ■DP6				
【到達目標】	1. 実習や臨床実践の中で直面した看護現象を記述することができる。 2. 看護研究で習得したリサーチクエッションの絞り込みができる。 3. リサーチクエッションに応じた研究デザイン、研究方法を検討することができる。 4. 研究の倫理的配慮について理解できる。				
【授業方法】	担当教員の指導の下で、グループゼミや個別指導などの方法で行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	一連の研究過程を経験する。 1) 研究課題、研究背景、研究目的等の検討 2) 研究計画書の作成（研究デザイン、方法、倫理的配慮等） 3) 研究の倫理的配慮についての確認 4) 研究計画書の作成 各自の研究計画書をゼミ形式で発表する。(I) 各自の研究計画書をゼミ形式で発表する。（II） 各自の研究計画書をゼミ形式で発表する。（III）			事前課題：担当教員がゼミ毎に指示する課題に取り組みプレゼンテーションを行う。 事後課題：ゼミにおける意見やコメントを元に課題の修正を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護研究、卒業研究 B				
【評価方法】	担当教員は卒業研究評価表 A に基づいて 100%評価を行う（DP2、DP6：到達目標 1～4 に対応）。				
【フィードバックの方法】	担当教員がその都度フィードバックする。				
【テキスト】	看護学部科目「看護研究」で使用するテキスト等				
【参考図書】	指定しない 担当教員より必要時提示する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	該当なし（一部に実務経験を有する教員は担当する）				
【その他】	ゼミ単位で指示する。				
【社会人聴講生】	不可	【交換留学生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	卒業研究 B		【科目英語名】	Graduation Study B	
【開講時期】	4 年通年／編入 4 年通年	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	＊看護学部全教員				
【担当教員】	＊看護学部全教員				
【授業の概要】	学生各自が、これまでの臨床実習経験ならびに学部における学習の中から研究課題を見出し、その課題に関連深い専門分野の教員の指導のもとで研究過程を経験・習得し、論文作成の基礎を学習する。				
【キーワード】	看護学の発展、科学的探究				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　□DP5　■DP6				
【到達目標】	1. 自己の研究課題を明らかにし、研究テーマを選定することができる。 2. 研究目的を定め、研究テーマに沿った研究デザイン、研究方法、倫理的配慮などが検討できる。 3. 計画した研究方法に沿って、データ収集、データ分析ができる。 4. 研究結果についてまとめ、結果に基づいた考察を深めることができる。 5. 卒業研究作成要領および要旨作成要領に基づいて論文、要旨を作成できる。 6. 論文と要旨を期限内に提出できる。 7. 卒業研究発表会の準備に取り組み、指定された時間内で研究の成果についてプレゼンテーションできる。				
【授業方法】	担当教員の指導の下で、グループゼミや個別指導などの方法で行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. 一連の研究過程を経験する。 1)研究課題を明らかにするための文献調査およびレビューを行い、研究背景を明らかにする。 2) 集めた情報を整理し、研究テーマを選定 3) 研究計画の検討(研究デザイン、研究方法、倫理的配慮等) 4) 研究倫理審査委員会の受審(必要時) 5) データ収集 6) データ分析 7) 結果のまとめと考察 2. 卒業研究作成要領に基づいて論文を作成 3. 論文要旨作成要領に基づいて要旨を作成 4. 論文および要旨を指定された期限内に提出 5. 卒業研究発表の準備 6. 卒業研究発表会でのプレゼンテーション			事前課題：担当教員がゼミ毎に指示する課題に取り組みプレゼンテーションを行う。 事後課題：ゼミにおける意見やコメントを元に課題の修正を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	「看護研究」の単位を取得していること。（編入生は、卒業研究 A も修得していること）				
【関連科目】	看護研究、卒業研究 A				
【評価方法】	卒業論文が期日内に提出されることが評価の前提である。 担当教員は卒業研究 B 評価表に基づいて 100%評価を行う(DP2、DP6：到達目標 1～7 に対応)。				
【フィードバックの方法】	担当教員がその都度フィードバックする。				
【テキスト】	科目「看護研究」で使用したテキスト等				
【参考図書】	指定しない　担当教員より必要時提示する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　□B グループワーク　■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	専門性のある研究の経験を有する教員が、その経験を活かして指導する。				
【その他】	状況によっては、オンライン指導など柔軟に対応する。ゼミ単位で指示する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	臨床シミュレーション EBN 実習		【科目英語名】	Practice of Simulation and Evidence-based Nursing	
【開講時期】	4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊山田 紋子				
【担当教員】	＊山田 紋子、＊林 みよ子、＊前野 真由美、＊鈴木 郁美、＊中岡 正昭、＊長谷部 美紀、＊植田 春美 ＊中村 卓樹				
【授業の概要】	第 1 に、保健医療福祉のチームの一員として協働できることを目指して、学生で形成するチームで看護を展開することにより、チーム内の情報共有、患者理解・看護の方向性に関する共通認識、統一した実践の重要性と難しさを学ぶ。第 2 に、専門基礎分野・看護専門分野で習得した知識・技術を統合し、科学的根拠に基づいた看護を実践するために、複雑な健康問題を有する患者に対する看護展開、EBN(Evidence-based nursing)プロジェクトの実際を学ぶ。第 3 に、全身状態悪化の異常サインを示す患者に対する実践に必要な帰納的な臨床判断を学ぶ。				
【キーワード】	チーム連携、Evidence-based nursing、臨床判断				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　■DP3　■DP4　□DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 受け持ち患者に対して、個別性を踏まえた根拠に基づくケアが提供できる。 2. EBN プロジェクトの過程を理解し、その実践の提案までを行うことができる。 3. 患者の個別性を踏まえた根拠に基づくケアを提供するために、チームで連携をはかることができる。 4. 高機能シミュレータに現れた典型的な「症状」に対して、初期対応に必要な適切で妥当な臨床判断ができる。 5. 自分では対応不可能と判断したときに適切な対応がとれる。 6. 所定のシナリオを用いたシミュレーション実習において、自己の臨床判断の適切性について考察できる。 7. シミュレーション実習による学習効果について評価できる。				
【授業方法】	・学生 3～4 名でチームを形成し、実習病棟において複雑な健康問題を有する患者を受け持つ。 ・チームで、受け持ち患者の看護過程を展開する。 ・チームで、受け持ち患者に関する EBN プロジェクトに取り組み、看護実践の提案までを行う。 ・高機能シミュレータを用いて、所定のシナリオに基づき、臨床判断の実践、それに対するデブリィフィング(振り返り)を反復して行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
1 日目 2 日目 3 日目 4 日目 5 日目 6 日目	＜病棟実習＞ ・オリエンテーションを受ける。 ・受け持ち患者を決定し、情報収集を行いアセスメントを開始する。 ・受け持ち患者に対して病棟の看護計画に沿ってケアを実践しながら、不足情報を収集しアセスメントを進める。 ・受け持ち患者の看護に関する実践的問いを明らかにする。 【帰校日】 ・受け持ち患者の情報の整理、アセスメント、全体像の統合、看護計画の立案を行う。 ・「実践的問い」を「焦点化した問い」に絞り込み、根拠の探索(文献検索・クリティーク)を行う。 ・受け持ち患者に対して、チームで立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画の評価・修正を行う。 ・得られた文献のクリティークを進め、エビデンスとして統合する。 ・チームで立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護過程の最終的な評価を行う。まとめとして看護要約を作成する。 ・統合したエビデンス・患者の価値観や希望・看護者の知識や技術を勘案し、提案する看護実践を確定し、提案書にまとめる。 ＜シミュレーション実習＞ ・オリエンテーションを受ける。			【事前課題】 ・EBN プロジェクトに関する講義を受講する。(実習ガイダンス時に実施) ・チームで役割分担について話し合い、決定する。 ・これまでの各自の実習の学びをチームで振り返り、受け持ちたい患者像を明らかにする。 ・チームでの看護実践をイメージしながら、実習時の行動計画(仮)を立案し、各自の役割を明確にする。 【事後課題】 ・実習の進度に従い、看護過程の展開・EBN プロジェクトを進める。	

7日目 8日目 9日目 10日目	・シミュレータでのバイタルサイン・正常と異常の確認、事例の学習(意識・呼吸・循環に関する急変時の迅速な対応を要する患者)に対する気づき、観察を行う。 ・シミュレータでの意識・呼吸・循環の確認、意識・循環・呼吸に関する判断に必要な知識に関する復習、事例(意識・呼吸・循環に関する急変時の迅速な対応を要する患者)に対する帰納的データ収集から臨床判断につながるプロセスを繰り返し行う。 【帰校日】 ・対となっているグループの根拠の探索を支援する。 ・意識・循環・呼吸の判断に必要な知識のさらなる学習、事例(意識・呼吸・循環に関する急変時の迅速な対応を要する患者)に対する観察から臨床判断、そして適切な報告を繰り返し行う。 ・新たな事例(意識・呼吸・循環に関する急変時の迅速な対応を要する患者)に対する臨床判断を行い、教員評価を受ける。	

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	原則として慢性看護学実習、急性期看護学実習の単位を取得していること。				
【関連科目】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、慢性看護学実習、急性期看護学概論、急性看護援助論演習、急性期看護学実習、多職種連携実習				
【評価方法】	原則として全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 臨床シミュレーション EBN 実習評価表に基づき評価する。病棟実習 50%(DP3、DP4:到達目標 1～3 に対応)、シミュレーション実習 50%(DP3、DP4:到達目標 4～7 に対応)とする。				
【フィードバックの方法】	・病棟実習:担当教員より、毎日コメント・助言する。 ・シミュレーション実習:各ターン後に行うデブリフィングにおいて、担当教員よりコメント・助言する。 ・病棟実習・シミュレーション実習毎、最終日に評価面接にて、担当教員よりコメントする。				
【テキスト】	・慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、急性期看護学概論、急性期看護援助論演習のテキストおよび配布資料 ・講義「EBN:Evidence-based nursing」の配布資料				
【参考図書】	・本実習までに受講した授業のテキスト、参考書、資料。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他( ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊複雑な健康問題を有する患者に対する看護実務経験のある教員が実習指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	国際保健・看護演習		【科目英語名】	Practice in Global Health Nursing	
【開講時期】	4 年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊根岸まゆみ				
【担当教員】	＊根岸まゆみ、＊竹熊カツマタ麻子				
【授業の概要】	国際保健・看護実習で対象とする地域の歴史、文化、家族制度、社会保障制度、医療・保健の仕組みなどの情報を把握し、現地で健康問題の実態と要因を検討することができる。また、実習先の教員・学生との交流を通じ、実習の準備ができる。				
【キーワード】	Global Health、Cultural Competence、Cultural Humiliation				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 対象国(その他参照)の多様な地域環境に暮らす人々の健康状態を捉える上で必要な視点を説明できる。 2. グループワークにより、健康状態を捉える上で必要な情報を収集し、健康状態を捉える過程を展開できる。 3. 人々の健康の実態や要因を捉えた内容につき、プレゼンテーションを通し明確に説明し討議できる。				
【授業方法】	COIL 授業、演習、グループディスカッション・プレゼンテーション、課題学習を併用して実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	演習ガイダンス・課題と実習地の説明 (根岸まゆみ)			事前:配布資料を通読 事後:課題レポート提出	
第 2 回	医療従事者に必要な英会話(根岸まゆみ)			事前:配布資料を通読し、英会話の学習 事後:学びをノート等に整理	
第 3 回	タイの文化、医療、看護についてのプレゼンテーション(根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子)			事前:プレゼンテーションの準備、英語・タイ語(日常会話用)の学習 事後:学びをノート等に整理	
第 4 回	コンケン大学との COIL 授業:実習ガイダンス(根岸まゆみ)			事前:配布資料を通読 事後:学びをノート等に整理	
第 5 回	コンケン大学との COIL 授業:日タイ学生によるグループワーク(根岸まゆみ)			事前:配布資料を通読 事後:課題レポート提出	
第 6 回	タイ語・英語を使用したシミュレーション演習 (根岸まゆみ、タイ人ゲスト)			事前:症例の予習、英語・タイ語の学習 事後:課題ペーパー提出	
第 7 回	実習目標・各自の目標を英語にてプレセンテーション (根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子)			事前:プレゼンテーションの準備 事後:課題レポート提出	
第 8 回	まとめ(根岸まゆみ)			事前:配布資料を通読 事後:学びをノート等に整理	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	教員との密なコミュニケーション(報告・連絡・相談など)を取ることができる。国際保健・看護に強い興味を持ち、英語やジェスチャーでのコミュニケーション能力を持つことが望ましい。 TOEIC450 点以上が望ましい。				
【関連科目】	国際保健・災害看護論、国際看護論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート 40%(DP2:到達目標 1 に対応)、グループワーク 30%(DP5:到達目標 2 に対応)、プレゼンテーション 30%(DP5:到達目標 3 に対応)、全ての採点基準はルーブリックを用いる。				
【フィードバックの方法】	グループワーク・プレゼンテーションへは授業時に口頭でフィードバックを行う。課題レポートへのフィードバックは教員から学生個別に行う。				
【テキスト】	2 年次に「国際保健・災害看護論」で使用した教科書				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク　□E その他(　　)　□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊国内外で看護師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義を実施する。				
【その他】	対象国とはタイである。本学と実習提携のある医療系大学と連携し演習を行う。保健師コースを履修する学生は本科目の履修不可である。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	国際保健・看護実習		【科目英語名】	Practice in Global Health Nursing	
【開講時期】	4 年通年	【必修区分】	選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊根岸まゆみ				
【担当教員】	＊根岸まゆみ、＊竹熊カツマタ麻子				
【授業の概要】	対象国（その他参照）における多様な地域環境に暮らす人々の健康な生活を守るための地域での取り組みの実際を理解し、国際保健や国際看護のあり方について理解し看護の役割を述べることができる。				
【キーワード】	Global Health、Cultural Competence、Cultural Humiliation				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 対象国における人々が暮らす地域環境について説明できる。 2. 対象国における人々の健康な生活に関わる保健・医療・福祉の取り組みを通し、看護職としての役割や、看護活動の実際を説明できる。 3. 多様な地域環境に暮らす人々の健康な生活を支援する上での国際保健活動や国際看護活動のあり方について考察することができる。				
【授業方法】	対象国の大学・医療施設などでの対面式授業や実習（英語）				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1～8 回	対象国の医療系大学、実習提携病院、地域の医療施設などで実習を行う。時期は 9 月頃予定。 ＊実習の詳細は本科目の演習時に説明する			渡航前：配布資料を熟読し、実習に備える 渡航後：対象国の担当教員・本学部担当教員の指示に従い実習課題をこなす 帰国後：終レポートの提出	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	教員との密なコミュニケーション（報告・連絡・相談など）を取ることができる。国際保健・看護に強い興味を持ち、英語やジェスチャーでのコミュニケーション能力を持つことが望ましい。 TOEIC450 点以上が望ましい。				
【関連科目】	国際保健・災害看護論、国際看護論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。実習課題 60%（DP5：到達目標 1 に対応）、カンファレンスなどにおける発表内容 20%（DP2：到達目標 1 に対応）、最終レポート 20%（DP2：到達目標 1 に対応）の内容等で総合的に評価する。全ての採点基準はルーブリックと自己評価表（実習要項参照）を用いる。				
【フィードバックの方法】	実習課題、カンファレンスなどにおける発表内容に対しては、授業時に口頭でフィードバックを行う。最終レポートへのフィードバックは教員から学生個別に行う。				
【テキスト】	2 年次に「国際保健・災害看護論」で使用した教科書				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊国内外で看護師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義を実施する。				
【その他】	対象国とはタイである。本学と実習提携のある医療系大学と連携し演習を行う。保健師コースを履修する学生は本科目の履修不可である。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	発展看護実習		【科目英語名】	Practice in Nursing Focus	
【開講時期】	4 年通年/編入 4 年通年	【必修区分】	選択必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	＊看護系教員				
【担当教員】	＊看護系教員				
【授業の概要】	これまでの学習を統括し自らの課題・実習目標をもって、対象の特性や健康レベルに応じた看護職としての看護実践について学ぶ。また、保健・医療・福祉の連携や地域での包括支援において提供されている看護の現状と課題について考察する。				
【キーワード】	発展、総括、総合、実習				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　□DP3　■DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. これまでの実習を総括し、実習における自己の興味・関心を明らかにしたうえで、実習課題・実習目的を明確にできる。 2. 実習課題・実習目的に沿って、担当教員と相談の上で、自らの実習計画を立案できる。 3. 実習計画に沿って、計画変更が必要な場合は修正しながら、自己の実習目標が到達できるよう、実習施設・実習場と調整して実習を行うことができる。 4. 保健・医療・福祉の連携や地域での包括支援における看護の現状と課題について理解し、考察できる。				
【授業方法】	学生の希望に基づいた看護学領域で実習を行う。 実習における自己の興味・関心を明らかにし、担当教員と相談の上で自ら実習計画を立て、実習指導者の助言を受けながら実習を行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. これまでの実習を総括し自己の興味・関心から、本実習における自己の課題を明確にする。 2. 担当教員と相談の上で、自己の課題に関する実習計画を立案する。 3. 立案した実習計画に沿って、実習指導者に助言を受けながら実習する。 4. 実習期間中適宜カンファレンスを計画し、学びを深める。 5. 実習期間中、実習評価表を用いて形成評価を行う。 6. 保健・医療・福祉の連携や地域での包括支援における看護の課題について考察し記録する。			【事前課題】 ・これまでの実習から自己の興味あること・関心あることを考えておく。 【事後課題】 ・毎日の実習後：実践して考えたことを実習記録に整理する。 ・実習最終日：実習での学びを踏まえて評価表を用いて自己評価する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	原則として、3 年次までの必修科目の単位を習得していること				
【関連科目】	専門領域の実習科目				
【評価方法】	原則として全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 担当教員が事前に示す発展看護実習評価表に基づいて評価する。 実習計画書立案 30%(DP4：到達目標 1・2 に対応)、実践 30%(DP4：到達目標 3 に対応)、実習記録 40%(DP5：到達目標 4 に対応) とする。				
【フィードバックの方法】	担当教員がその都度フィードバックを行う				
【テキスト】	特に指定しない				
【参考図書】	担当教員より適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク　□E その他(　　)　□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師として実務経験がある教員が指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	感染看護演習アドバンス		【科目英語名】	Advanced Seminar of Infection Prevention Nursing	
【開講時期】	4年通年/編入4年通年	【必修区分】	選択	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊操華子				
【担当教員】	＊操華子、＊丹羽隆(非常勤)、＊山梨和子(非常勤)、＊菊地義弘(非常勤)				
【授業の概要】	感染予防は医療の質向上の根幹をなすものであり、すべての医療・看護場面において必須なスキルである。本科目では、国内外で流行している感染症の現状、感染予防体制の実際の基本とケーススタディを通して感染制御の実際について学習する。				
【キーワード】	感染症看護、感染管理、感染予防策、医療関連感染、感染症パンデミック				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 人類と感染症との戦い、予防対策の変遷について述べることができる。 2. 国内外で問題となっている感染症の現状・課題、求められる対策を検討できる。 3. 国内の感染予防体制、その活動について述べることができる。 4. アウトブレイク発生時の必要な感染症予防対策とその根拠を述べることができる。				
【授業方法】	前期は対面講義を中心とする。後期はグループでのケーススタディや演習を行い、学生同士で主体的に学びあう形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	オリエンテーション、感染症の変遷・感染予防対策のはじまり(操華子)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第2回	現代社会における感染症の現状と課題　(操華子)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第3回	感染対策チーム(ICT)の活動と役割　(操華子)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第4回	感染対策チーム(ICT)の中核を担う看護専門職の活動の実際(菊地義弘)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第5回	アウトブレイク発生時の対応と調査：バンコマイシン腸球菌(VRE)集団発生を例に　(操華子)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第6回	バンコマイシン腸球菌(VRE)集団発生を体験して　(山梨和子)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第7回	感染対策チームと抗菌薬ラウンド：基本的知識　(丹羽隆)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第8回	感染対策チームと抗菌薬ラウンド：活動の実際　(丹羽隆)			事前　テキスト該当箇所の精読 事後　学習内容を各自でまとめる	
第9回	グループ演習①　ケーススタディ①　(CDI の集団発生事例)(操・菊地)			事前　CDIに関する文献の精読 事後　ケーススタディの発表準備	
第10回	グループ演習②　ケーススタディ①　発表　(菊地・操) グループ演習③　ケーススタディ②　(麻疹の集団発生事例)			事前　麻疹に関する文献の精読 事後　ケーススタディの発表準備	
第11回	グループ演習④　ケーススタディ②　発表　(山梨・操) グループ演習⑤　ケーススタディ③　(医療従事者の:結核曝露事例)			事前　結核に関する文献の精読 事後　ケーススタディの発表準備	
第12回	グループ演習⑥　ケーススタディ③　発表　(山梨・操) グループ演習⑦　ケーススタディ④　(手術部位感染)			事前　手術部位感染に関する文献の精読 事後　ケーススタディの発表準備	
第13回	グループ演習⑧　ケーススタディ④　発表　(菊地・操) グループ演習⑨　ケーススタディ⑤　(薬剤耐性菌集団発生事例)			事前　薬剤耐性菌に関する文献を精読 事後　ケーススタディの発表準備	
第14回	グループ演習⑩　ケーススタディ⑤　発表　(菊地・操)			事前　前期の集団発生に関する復習 事後　学習内容の復習	
第15回	まとめ			事前　第1回～第14回の授業資料の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	特になし				

【関連科目】	保健医療統計学、疫学				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。5回のケーススタディの課題プレゼンテーション 70%（DP2：到達目標 1～4 に対応）、ケーススタディの質疑応答への参加度 30%（DP5：到達目標 1～4 に対応）から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	質問や理解が不十分な点について、各回の授業の中でフィードバックする。				
【テキスト】	感染看護学　患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する／操華子・川上和美編／南江堂／978-4-524-22978-9 C3047				
【参考図書】	適宜、紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師・薬剤師の実務経験を有し、かつ医療施設の感染管理・感染制御に携わっている教員が、自身の経験も紹介しながら、講義・演習を担当し、学生のディスカッションに参加する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護管理論		【科目英語名】	Nursing Administration	
【開講時期】	4 年後期／編入 4 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【授業の概要】	看護が社会に果たす役割、医療における看護の活動を踏まえ、質の高い看護実践を可能にするための看護管理について、国内外に視野を広げて学び、ディスカッションによって理解を深める。				
【キーワード】	看護管理、多職種連携、質向上、組織論、人間関係、				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 看護管理のシステムについて理解し、考えを述べることができる。 2. 多職種連携医療の時代における看護と看護師の役割について理解し、考えを述べることができる。 3. 組織構築の視点から看護管理について理解し、考えを述べることができる。 4. 人間関係構築の視点から看護管理について理解し、考えを述べることができる。 5. 看護の質の視点から看護管理について理解し、考えを述べることができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜ディスカッションを行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	ガイダンス／看護管理とは （竹熊カツマタ麻子）			事前：シラバスを読んでおく。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 2 回	多職種連携医療の時代における看護と看護師の役割（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 3 回	多職種連携医療の時代における看護と看護師の役割（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 4 回	組織構築：組織論、リーダーシップ・メンバーシップ （竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後授業で提示した課題学習を行う。	
第 5 回	人間関係構築：コミュニケーション、アサーション、コンフリクト、ストレス(竹熊カツマタ麻子)			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 6 回	ケアの質向上のための方法論（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 7 回	質の高い看護サービスの提供とその課題（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 8 回	まとめ（竹熊カツマタ麻子）			事前：これまでの授業の復習を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護キャリアデザイン論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 1. 課題学習 80% （DP5：80%、DP2：20% 到達目標 1～5 に対応） 2. ディスカッション参加状況 20% （DP5：80%、DP2：20% 到達目標 1～5 に対応）				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーの個別内容については、メールやユニパ機能を用いて回答する。 課題学習の講評、授業内容に関する質問や意見については、次回の授業内において、学生全員にフィードバックを行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 看護管理学改訂第 2 版 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル／手島恵・藤本幸三編集／南江堂／978-4-524-25571-9				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　□■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護管理の経験を活かして教授し、討議に参加する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護キャリアデザイン論		【科目英語名】	Nursing Carrier Design	
【開講時期】	4 年後期／編入 4 年後期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【授業の概要】	看護専門職を生涯教育体系の中に位置づけ、看護者個々のキャリア発達を促していくために必要な考え方やシステムについて学ぶ。どのように働き、どのような人生を送りたいのかという問いに対して、自らのキャリアアンカーをみつけ、看護職としての「自分らしい生き方」をデザインする手がかりを探る。				
【キーワード】	キャリアデザイン、キャリアアンカー、キャリア発達、キャリア開発				
【DP との関連】	□DP1-1　□DP1-2　■DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. キャリアデザイン・キャリアアンカーを見出す手掛かりとしての看護システム・支援を述べることができる。 2. 看護教育の現状を踏まえ、キャリアのあり方について考えを述べることができる。 3. 看護の専門性、多岐にわたる看護活動を理解し、自分の目指すキャリアを述べることができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義、およびディスカッション形式で行い、自身のキャリアについては、プレゼンテーションを実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	ガイダンス／キャリアとは（竹熊カツマタ麻子）			事前：シラバスを読んでおく。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 2 回	キャリアデザインの考え方（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 3 回	多職種連携チームにおける看護専門職のあり方（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 4 回	多職種連携チームにおける看護専門職のあり方（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 5 回	看護職の専門分化：高度実践（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 6 回	看護職の専門分化：高度実践（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 7 回	看護職の専門分化：国際化（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 8 回	看護職の専門分化：国際化（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 9 回	日本の看護継続教育・看護卒後教育（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 10 回	看護職のキャリア開発とその課題（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 11 回	看護職のキャリア開発とその課題（竹熊カツマタ麻子）			事前：前回授業にて提示した学習を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 12 回	自分のキャリアデザインを提案する（竹熊カツマタ麻子）			事前：プレゼンテーションの準備を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 13 回	自分のキャリアデザインを提案する（竹熊カツマタ麻子）			事前：プレゼンテーションの準備を行う。 事後：授業で提示した課題学習を行う。	
第 14 回	まとめ（竹熊カツマタ麻子）			事前：全授業の振り返りを行う。 事後：自身の振り返りを行う。	
第 15 回	まとめ（竹熊カツマタ麻子）			事前：関連科目を含めた授業の振り返りを行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護管理論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 1. 課題学習 50%　（DP5：80%、DP2：20%　到達目標 1～3 に対応）				

	2. ディスカッション参加状況 20% （DP5:80%、DP2:20% 到達目標 1～3 に対応） 3. プレゼンテーション 30% （DP5:80%、DP2:20% 到達目標 3 に対応）				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーの個別内容については、メールやユニパ機能を用いて回答する。 課題学習の講評、授業内容に関する質問や意見については、次回の授業内において、学生全員にフィードバックを行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 看護管理学改訂第 2 版 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル／手島恵・藤本幸三編集／南江堂／978-4-524-25571-9				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他（ ） □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師経験を活かして教授し、自身のキャリアを紹介しつつ討議に参加する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護政策論		【科目英語名】	Political Issues in Nursing	
【開講時期】	4年後期／編入4年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	＊東野　定津				
【担当教員】	＊東野　定津				
【授業の概要】	わが国の医療制度改革から現在に至る一連の歴史、目標、計画、評価といった知識を確認した上で国際動向を検証しつつ、近年の診療報酬改定や看護必要度といった看護行政分野の諸制度改革を検証し、あわせてわが国の医療制度、介護保険制度、組織経営の現状と課題を看護政策の側面から探求する。				
【キーワード】	看護政策、保健医療政策、看護組織				
【DPとの関連】	□DP1-1　□DP1-2　□DP2　□DP3　□DP4　■DP5　□DP6				
【到達目標】	1. 看護職に関わる保健・医療・介護に関する諸制度の理解を深め、課題を考察できる。 2. 地域包括ケアを中心とした保健医療福祉政策について理解を深め、説明できる。 3. 看護職における政策的課題について検討を行い、改善策を提案できる。				
【授業方法】	基本的に講義は受講者の理解を促すためにPP資料の配付、関連資料を準備し、説明を行う。保健・医療・福祉および看護政策に関わる基礎的知識を習得するプログラムとなっている。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	オリエンテーション（看護における医療介護の基礎知識の確認）（東野定津）			事前：配布資料の内容について通読 事後：講義後内容についてノート等に整理	
第2回	医療保険制度と地域医療構想（東野定津）			事前：配布資料の内容について通読 事後：講義後内容についてノート等に整理	
第3回	介護保険制度と医療介護連携（東野定津）			事前：配布資料の内容について通読 事後：講義後内容についてノート等に整理	
第4回	地域共生と静岡県における地域包括ケア（東野定津）			事前：配布資料の内容について通読 事後：講義後内容についてノート等に整理	
第5回	医療看護政策とサービス評価（東野定津）			事前：配布資料の内容について通読 事後：講義後内容についてノート等に整理	
第6回	看護必要度と看護サービスの質の評価（東野定津）			事前：配布資料の内容について通読 事後：講義後内容についてノート等に整理	
第7回	グループワーク（東野定津）			事前：グループワークに向けた資料収集 事後：プレゼン内容を整理	
第8回	発表と全体まとめ（東野定津）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	保健福祉行政論				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績はミニレポート60%（DP1-2：到達目標1～3に対応）、最終レポート40%（DP1-2：到達目標1～3に対応）で評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容、課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	必要に応じて、資料を配布する。				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート　■B グループワーク　□C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク　□E その他（　　）□F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊担当教員においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

X 履　修　細　則

1. 令和６年度以降入学生（令和７年４月１日付）
2. 令和６年度以降入学編入学生・３年課程修了者用（令和７年４月１日付）

令和６年度以降入学生用（編入学生は含まない）

看護学部履修細則

令和６年４月１日 細則第16号
改正　令和７年４月１日

第１章　目的

（目的）

第１条　看護学部授業科目の履修方法その他学生の学修に関しては、静岡県立大学学則及び本細則に定めるものとする。

第２章　授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第２条　開設する授業科目及び単位数は、学則第 42 条第１項に定めるとおりとする。

（授業科目の履修方法・登録）

第３条　学生は、授業開始後２週間以内にその学期において履修しようとする授業科目を Web 学生サービス支援システムにより履修登録しなければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第４条　同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して登録した場合は、いずれの科目も無効となる。

（既修得授業科目の再履修）

第５条　既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

（配当年次）

第６条　各授業科目の配当年次は、本細則別表１に掲げる。

（基礎分野Ⅰの履修単位）

第７条　基礎分野Ⅰの修得必要単位数は、次のとおりとする。

必要単位数：10 単位以上

基礎分野Ⅱの「運動」、「研修」、「教育」の科目を含めて 10 単位以上とする。

２　「しずおか学」科目群については、卒業までに２単位以上修得する。

３　必修科目「数理・データサイエンス・AI 入門」は必ず修得する。

（基礎分野Ⅱの履修単位）

第８条　基礎分野Ⅱの修得必要単位数は、次のとおりとする。

必修科目：７単位以上

ただし、「運動」、「研修」、「教育」の科目は基礎分野Ⅰと合わせて 10 単位以上とし、基礎分野Ⅱの修得必要単位数には含めないものとする。

（専門基礎分野の履修単位）

第９条　専門基礎分野の修得必要単位数は、次のとおりとする。

必修科目：28 単位

選択科目：４単位

（専門分野の履修単位）

第 10 条　専門分野の修得必要単位数は、次のとおりとする。

必修科目:77 単位

（単位の修得）

第 11 条　授業科目の単位の修得は、担当教員の認定による。

２　単位を修得するためには、その授業科目を履修し、かつ試験に合格しなければならない。

（他学部授業科目の履修方法）

第 12 条　他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目担当教員の許可を受けなければならない。

２　前項の履修の可否については、教授会審議を経て決定する。

３　前項に基づいて履修した者には、当該授業科目担当教員の評価に基づき単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しない。

４　第１項の許可を受けようとするときは、所定の許可願に当該授業担当教員の捺印又は署名を得たものを、当該授業開始後２週間以内に学生室に提出するものとする。

第３章　試験及び成績の評価

（試験）

第 13 条　定期試験は、原則として授業終了後の試験期間に行う。ただし、授業科目によっては随時行うことがある。

（受験資格）

第 14 条　開講回数のうち２／３以上の出席により、受験資格を認める。ただし、授業担当教員の裁量により、一度の欠席で受験資格が認められない科目もある。

２　授業の出欠は、以下のとおりとする。

（１）　授業開始後30分以内の入室は遅刻とし、授業開始後60分以降の退室は早退として扱う。

（２）　授業開始後30分超の入室又は授業開始後60分未満の退室は、欠席として扱う。

（３）　遅刻又は早退３回をもって欠席１回とみなす。

（成績の評価）

第 15 条　成績の評価は、試験の結果と平常の学習状況とを総合して授業科目担当教員がこれを行い、秀、優、良、可、不可の５区分とし、可以上を合格として所定の単位を与える。

2　履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は不可と判断する。

（単位認定報告書の提出）

第 16 条　担当教員は、試験終了後２週間以内に成績の評価を Web 学生サービス支援システムにより行う。

（追試験）

第 17 条　次の理由で試験を欠席した者については、追試験を行うことができる。

（1）　病気（ただし、医師の診断書を要する）

（2）　忌引（1・2親等に限り、死亡の日より１週間以内）

（3）　就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

（4）　その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

2　前項の事由により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から１週間以内に、所定の様式およびその事由を証明する書類を学生室に提出しなければならない。

（再試験）

第 18 条　成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。

（不正行為）

第 19 条　学修の過程（講義への出席、レポート作成、試験など）において不正行為を行った者には、当該科目を含むその学期（通年の科目においては年度）の全部又は一部の科目の履修単位を無効とする。

2　前項の決定は、教授会の議を経て行う。

3　第１項の不正行為が悪質である場合、学則第 57 条第１項に定める懲戒の対象とする。

（再履修）

第 20 条　前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後期又は後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第４章　進級・卒業要件

（３年次進級要件）

第 21 条　３年次に進級するためには、２年以上在学し、下表のとおり基礎分野Ⅱ（必修科目）７単位、専門基礎分野（必修科目）28 単位、専門分野 40 単位、計 75 単位以上を修得しなければならない。

基礎分野Ⅱ（必修科目）	専門基礎分野（必修科目）	専門分野	合計
７単位	28 単位	40 単位	75 単位以上

2　進級・留年の決定は、教授会の議を経て行う。

（卒業要件）

第 22 条　卒業するためには、4年以上在学し、下表のとおり基礎分野Ⅰ10 単位以上（基礎分野Ⅱ「運動」「研修」「教育」の科目を含む。）、基礎分野Ⅱ 7 単位以上、専門基礎分野 32 単位以上（必修科目 28 単位を含む。）、専門分野 77 単位以上の合計 126 単位以上を修得しなければならない。

基礎分野Ⅰ	基礎分野Ⅱ	専門基礎分野	専門分野	合計
10 単位以上（基礎分野Ⅱ「運動」「研修」「教育」の科目を含む。）	7 単位以上	32 単位以上（必修科目 28 単位を含む。）	77 単位以上	126 単位以上

2　4年次において卒業要件を満たさなかった者が、年度途中にその要件を満たした場合は、卒業できることがある。

3　卒業・留年の決定は、教授会の議を経て行う。

第5章　入学前の既修得単位の認定

（入学前の既修得単位の認定）

第 23 条　学則第 40 条に規定する既修得単位の認定を受けようとする者は、前期授業開始後 2 週間以内に、その認定を受けようとする授業科目を所定の様式により申告しなければならない。

2　既修得単位の認定の対象となる授業科目のうち、大学（短期大学又は高等専門学校の専攻科を含む）を卒業した学生は、編入学等の場合を除き、合わせて 30 単位を上限として認定する。その内、基礎分野Ⅰに該当する授業科目については、合計 10 単位を上限として認定する。

3　基礎分野Ⅰに該当する既修得単位の認定の対象となる授業科目及び単位数は、学部長が審査する。

4　基礎分野Ⅱ、専門基礎分野、専門分野に該当する科目については、担当教員が審査する。

5　第 1 項から第 4 項までに定める手続の後に、教授会の承認を経て学長決裁により既修得単位を認める。

第6章　その他

（その他）

第 24 条　この細則に定めのない事項又はこの細則により難い特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

附 則

この細則は、令和６年４月１日から施行する。

附 則

この細則は、令和７年４月１日から施行する。

令和６年度以降入学の編入学生用（３年課程修了者）

看護学部履修細則

令和６年４月１日 細則第16号
改正　令和７年４月１日

第１章　目的

（目的）

第１条　看護学部授業科目の履修方法その他学生の学修に関しては、静岡県立大学学則及び本細則に定めるものとする。

第２章　授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第２条　開設する授業科目及び単位数及び配当年次は、学則第 42 条第１項に定めるとおりとする。

（授業科目の履修方法・登録）

第３条　学生は、授業開始後２週間以内にその学期において履修しようとする授業科目を Web 学生サービス支援システムにより履修登録しなければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第４条　同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して登録の場合は、いずれの科目も無効とする。

（既修得授業科目の再履修）

第５条　既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

（配当年次）

第６条　各授業科目の配当年次は、本細則別表２に掲げる。

（基礎分野Ｉの履修単位）

第７条　基礎分野Ｉの修得必要単位数は、次のとおりとする。

必要単位数：10 単位以上

基礎分野Ⅱの「運動」、「研修」、「教育」の科目を含めて 10 単位以上とする。

２　「しずおか学」科目群については、卒業までに２単位以上修得する。

３　必修科目「数理・データサイエンス・AI 入門」は必ず修得する。

（基礎分野Ⅱの履修単位）

第８条　基礎分野Ⅱの修得必要単位数は、次のとおりとする。

必修科目：８単位以上

ただし、「運動」、「研修」、「教育」の科目は基礎分野Ｉと合わせて 10 単位以上とし、基礎分野Ⅱの修得必要単位数には含めないものとする。

（専門基礎分野の履修単位）

第９条　専門基礎分野の修得必要単位数は、次のとおりとする。

必修科目：26 単位以上

（専門分野の履修単位）

第 10 条　専門分野の修得必要単位数は、次のとおりとする。

必修科目:22 単位

（単位の修得）

第 11 条　授業科目の単位の修得は、担当教員の認定による。

２　単位を修得するためには、その授業科目を履修し、かつ試験に合格しなければならない。

（他学部授業科目の履修方法）

第 12 条　他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目担当教員の許可を受けなければならない。

２　前項の履修の可否については、教授会審議を経て決定する。

３　前項に基づいて履修した者には、当該授業科目担当教員の評価に基づき単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しない。

４　第１項の許可を受けようとするときは、所定の許可願に当該授業科目担当教員の捺印又は署名を得たものを、当該授業開始後２週間以内に学生室に提出するものとする。

（編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目の履修方法）

第 13 条　編入学生のカリキュラムに指定されていない科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。

２　前項に基づいて履修した者には、当該授業科目担当教員の評価に基づき単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しない。

３　第１項の許可を受けようとするときは、所定の許可願に当該授業担当教員の捺印又は署名を得たものを、当該授業開始後２週間以内に学生室に提出するものとする。

第３章　試験及び成績の評価

（試験）

第 14 条　定期試験は、原則として授業終了後の試験期間に行う。ただし授業科目によっては随時行うことがある。

（受験資格）

第 15 条　開講回数のうち２／３以上の出席により、受験資格を認める。ただし、授業担当教員の裁量により、一度の欠席で受験資格が認められない科目もある。

２　授業の出欠は、以下のとおりとする。

（１）　授業開始後30分以内の入室は遅刻とし、授業開始後60分以降の退室は早退として扱う。

（２）　授業開始後30分超の入室又は授業開始後60分未満の退室は、欠席として扱う。

（３） 遅刻又は早退３回をもって欠席１回とみなす。

（成績の評価）

第 16 条 成績の評価は、試験の結果と平常の学習状況とを総合して授業科目担当教員がこれを行い、秀、優、良、可、不可の５区分とし、可以上を合格として所定の単位を与える。

（単位認定報告書の提出）

第 17 条 担当教員は、試験終了後２週間以内に成績の評価を Web 学生サービス支援システムにより行う。

（追試験）

第 18 条 次の理由で試験を欠席した者については、追試験を行うことができる。

（１） 病気（ただし、医師の診断書を要する）

（２） 忌引（１・２親等に限り、死亡の日より１週間以内）

（３） 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

（４） その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

２ 前項の事由により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から１週間以内に、所定の様式およびその事由を証明する書類を学生室に提出しなければならない。

（再試験）

第 19 条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。

（不正行為）

第 20 条 学修の過程（講義への出席、レポート作成、試験など）において不正行為を行った者には、当該科目を含むその学期（通年の科目においては年度）の全部又は一部の科目の履修単位を無効とする。

２ 前項の決定は、教授会の議を経て行う。

３ 第１項の不正行為が悪質である場合、学則第 57 条第１項に定める懲戒の対象とする。

（再履修）

第 21 条 前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第４章 卒業要件

（卒業要件）

第 22 条 卒業するためには、２年以上在学し、下表のとおり基礎分野Ⅰ10 単位以上（基礎分野Ⅱ「運動」「研修」「教育」の科目含む。）、基礎分野Ⅱ８単位以上、専門基礎分野 26 単位以上、専門分野 22 単位以上の合計 66 単位以上を修得しなければならない。

基礎分野Ⅰ（基礎分野Ⅱ「運動」「研修」「教育」の科目含む。）	基礎分野Ⅱ	専門基礎分野	専門分野	合計
10単位以上	8単位以上	26単位以上	22単位以上	66単位以上

なお、卒業に必要な単位数は、入学前の既修得単位の認定を含め、入学年度の第1年次の同学年学生に規定されている126単位である。

2　4年次において卒業要件を満たさなかった者が、年度途中にその要件を満たした場合は、卒業できることがある。

3　卒業・留年の決定は、教授会の議を経て行う。

第5章　入学前の既修得単位の認定

（入学前の既修得単位の認定）

第23条　編入学生は既に看護師国家試験受験資格に要する教育を修了していることより、専門基礎分野、専門分野のうち60単位（科目を特定しない）を既履修単位とする。

2　教授会の承認を経て学長決裁により既修得単位として認める。

第6章　その他

（その他）

第24条　この細則に定めのない事項又はこの細則により難い特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

附 則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和7年4月1日から施行する。

この履修要項（シラバス）は、卒業時まで使用します。

履修要項（シラバス）の再発行はできません。

卒業後もシラバスが必要となる場合がありますので、

各自で保管してください。